

第七十九回帝國議會
衆議院

所得稅法中改正法律案外十七件委員會會議錄(速記)第六回

會議

昭和十七年一月二十九日(木曜日)午後一時
二十三分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 勝 正憲君

理事駒井 重次君 理事河野 密君

理事松永 義雄君

青山 憲三君

伊藤 五郎君

猪野毛利榮君

宇賀 四郎君

小高長三郎君

岡本實太郎君

佐竹 晴記君

小畑虎之助君

篠原 陸朗君

豐田 收君

村上紋四郎君

山本 芳治君

田川大吉郎君

大橋清太郎君

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 賀屋 興宣君

出席政府委員左ノ如シ

內務書記官 小林 千秋君

大藏省主稅局長 松隈 秀雄君

金澤 正雄君

青木 作雄君

高橋熊次郎君

藤本 捨助君

森 肇君

豐田 豐吉君

百瀨 渡君

加藤 鯛一君

大藏書記官 池田 勇人君
大藏書記官 平田敬一郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

所得稅法中改正法律案(政府提出)

法人稅法中改正法律案(政府提出)

所得稅法人稅內外關涉法中改正法律案
(政府提出)

相續稅法中改正法律案(政府提出)

織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

物品稅法中改正法律案(政府提出)

電氣瓦斯稅法案(政府提出)

廣告稅法案(政府提出)

馬券稅法案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

特別法人稅法中改正法律案(政府提出)

營業稅法中改正法律案(政府提出)

臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)

國庫出納金端數計算法中改正法律案(政
府提出)

戰時災害國稅減免法案(政府提出)

所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法
律案(政府提出)

地分與稅法中改正法律案(政府提出)

○勝委員長 ソレデハ是ヨリ會議ヲ開キマ
ス——伊藤五郎君

付託議案

所得稅法中改正法律案(政府提出)

(第二一〇號)

法人稅法中改正法律案(政府提出)

(第二二號)

所得稅法人稅內外關涉法中改正
法律案(政府提出)

(第二二號)

相續稅法中改正法律案(政府提出)

(第三三號)

織物消費稅法中改正法律案(政府
提出)

(第二四號)

物品稅法中改正法律案(政府提出)

(第二五號)

電氣瓦斯稅法案(政府提出)

(第二六號)

廣告稅法案(政府提出)

(第二七號)

馬券稅法案(政府提出)

(第二八號)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

(第二九號)

臨時利得稅法中改正法律案(政府
提出)

(第三〇號)

特別法人稅法中改正法律案(政府
提出)

(第三一號)

營業稅法中改正法律案(政府提出)

(第三二號)

臨時租稅措置法中改正法律案(政
府提出)

(第三三號)

國庫出納金端數計算法中改正法律
案(政府提出)

(第三四號)

戰時災害國稅減免法案(政府提出)

(第三五號)

所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關
スル法律案(政府提出)

(第三六號)

○伊藤(五)委員 私ハ主税局長ニ是非御尋

ネヲシテ置カケレバナラナイ一事ガアル
ノデアリマス、ソレハ此ノ課稅ヲスル根本
ノ土臺ニナル問題デアリマス、御承知ノ如
ク課稅ト云フモノハ國民所得ト國富、此ノ
二ツガ大體根本ニナツテ居ルと思フノデ
アリマス、而シテ所得稅ニ付キマシテハ、
既ニ過般ノ委員會ニ於キマシテ大藏大臣ヨ
リ御發表ニ相成ツタノデアリマスケレドモ、
今日ニ至ルマデ日本ノ國富、之ニ付キマシ
テハ昭和五年以來マダ完全ナル御發表ガナ
イト思フノデアリマス、昭和五年ニハ吾々
ハ慥カ我が國ノ富ノ力ハ一千一百億圓ト記
憶致シテ居ルノデアリマス、爾來年ヲ閱シ
マスルコト十數年デアリマス、其ノ間我が
國ノ富ノ力ト云フモノハ非常ナル増強ヲ致
シテ居ルと思フノデアリマス、此ノ際日本
ノ國ノ富ノ力ト云フモノヲ御發表ニナルコ
トガ、吾々ガ此ノ増稅案ノ審議ヲ進メルニ
付キマシテ最モ肝要ナルコトと思ヒマスカ
ラ、政府ハ出來ルダケ詳シク此ノ國ノ富ノ
程度ト云フモノニ付キマシテ御發表ヲ願ヒ
タイト思フノデアリマス

○松隈政府委員 課稅ノ根據ト致シマシテ、

課稅ヲ合理的ニ考ヘマスル場合ニ於テ必要
ナモノハ國民所得デアリ、一面國富デアリ
マス、隨ヒマシテ、國民所得ノ調査及ビ國富ノ
調査ガ相當完全ニ行ハレル必要アリマス
コトハ正ニ御説ノ通りデアリマス、國民所得
ニ付キマシテモ内閣統計局ノ調査ハ昭和五
年分ガ發表サレテ居ルコトハ御承知通りデア
リマス、昭和十年分ニ付テハ調査ハアリマスルケ
レドモ公式ニ發表ハシテ居リマセヌ、其ノ後
モ國民所得ノ調査ハ進メラレテ居ルヤウデ
アリマスルケレドモ、權威ヲ以テ發表サレ

タ數字ハナイヤウニ思ヒマス、國富ノ調査
ニ至リマスルト、國民所得ヨリモモウ一層
調査ガ困難デアリマシテ、内閣統計局ニ於
テモ調査シテ居ルコトハ思ヒマスルガ、
今日發表スル所マデハ行ツテ居ラナイヤウ
デアリマス、今後ニ於テ調査ノ必要デアリ
マスルコトハ御説ノ通りデアリマスノデ、
政府全體トシテ此ノ問題ニ付テハ十分考ヘ
ナケレバナラヌト思ヒマス、尙ホ調査ガ出
來タ場合ニ於テ、之ヲ發表シタ方ガ宜イカ
ドウカト云フコトハ、戰時下ニ於テハ多少
疑問ガアルト思ヒマスガ、少クトモ調査ダ
ケハ十分ニ致サナケレバナラヌト思フノデ
アリマス

○伊藤(五)委員 私ハ大藏省ニ於テ此ノ問

題ヲ一番早く完全ニ調査ヲシテ置カケレ
バ、問題ハ實際ニ解決シナイコトニナリハ
シナイカト思ヒマス、ソレデ特ニ此ノ委員
會ヲ活用シマシテ御質問ヲ申上ゲルノデア
リマスガ、調査ガ出來テ居ナイト云フナラ
バ已ムヲ得ナイノデアリマスケレドモ、ソ
レデハ國民ニ對シテ申譯ナイト思ヒマス、
斯クノ如キ重大ナル問題ハ、眞ニ全力ヲ舉
ゲテ一日モ早く此ノ調査ヲ完成スルヤウニ
シナケレバナラヌト思フノデアリマス、是
ダケヲ御注意申上ゲマシテ次ノ問題ニ進ミ
タイト思フノデアリマス

私ハ主税局長ノ御答辯ヲズツト聽イテ居

リマシテ、大體吾々ノ意見ト同ジヤウニ見
エマスケレドモ、何トナク主税局長ハ此ノ
大東亞戰爭下ニ於ケル増稅ノ問題ニ付キマシ
テ、臨時的ナモノデアアルカノ如キ御意思ガ
アルヤウニ私ハ拜聽シタノデアリマス、サ
ウシテ將來或ハ財政ニ餘裕ガ生ジタ場合
ニハ、此ノ稅ヲ輕減スルト云フヤウナ御發表

モアツタヤウデアリマスケレドモ、是ハ私
ハ相當御注意ヲ願ハナケレバナラナイと思
フノデアリマス、御承知ノ如ク今度ノ大東
亞戰爭ハ、是ハ人類ノ歴史始マツテ以來ノ
大戰爭デアリマス、緒戦ニ於テ我が國ガ勝
ツタト云ツテモ、御承知ノ如ク彼ノ世界最
大ノ強國ト自負シテ居ル所ノ英米ヲ相手ト
シテ戰ヒ抜カケレバナラヌ、勝抜カケ
レバナラヌ、私ハ少クトモ今度ノ戰爭ト云
フモノハ半永久ノ戰爭狀態ヲ續ケルモノ
デアルト云フ信念ヲ持ツテ居リマス、此ノ
點ニ付キマシテハ政府ニ於テモサウ云フ御
考ヘト思フノデアリマスガ、御答辯ノ仕方
ガ如何ニモ臨時的ナヤウニ吾々ニハ聞エル
ノデアツテ、此ノ點ガ吾々ノ認識ト多少違
フヤウニ聞エタノデアリマス、ソレガ新聞
ニ發表サレタノデ、國民ノ中ニハ近イ將來
ニ税金ガ、或ハ輕減セラレハシナイカト云フ
考ヘヲ持ツニ至ツタ者ガアルノデアリマス、
併シナガラ私ハ此ノ戰爭ハ半永久ノ戰爭
形態ヲ續ケルノデアツテ、恐ラク今後ト雖
モ、其ノ税金ハ輕減セラレハシナイコトハ
ナイト思ヒマス、政府ハ之ヲ國民ニ知ラシ
テ置イテ、本當ニ國民ノ協力ヲ求メナケレ
バナラヌト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ
付テモウ一度御考ヘヲ實シテ置キタイノデ
アリマス

○松隈政府委員 先日岡本委員ノ質問中ニ

今回ノ増稅ハ臨時的ノ増稅デアアルカ、恒久
的ノ増稅デアアルカト云フヤウナ御尋ネガア
リマシタガ、其ノ際ニ於キマスル私ノ答辯
ノ言葉ガ足りマセヌデシタ爲ニ、或ハ誤解
ヲ生シタト思フノデアリマスガ、臨時的ト
申シマシテモ、其ノ臨時ト申ス中ニハ比較
的短イ臨時モアレバ、相當長イ臨時モアル、

今回ノ増稅ハ決シテ短イ臨時的デハナイ、
長イ臨時デアルト、斯ウ云フコトヲ申上ゲタ
ノデアリマシテ、其ノ意味ハ御話ノ如ク米
英ヲ相手トスル歴史上曾テナキ大戰爭ニ突
入シテ居ル、隨ヒマシテ此ノ戰爭ガ長期戰
ニナル、隨ツテ増稅ノ續キマスノモ、相當
長イ期間ニナル、斯ウ云フ意味デアツタノ
デアリマス、ソレカラ戰爭ガ終ツタ後ニ於
テハ減稅スルカドウカト云フ問題デアリマ
スガ、從來ノ例カラ申シマシテモ、戰爭ガ
終ツタ後、直グニ減稅ハ申シマシテモ、
アリマス、戰後ノ財政整理ト云フ問題ハ、
見方ニ依リマス、戰中ヨリモ一層困難
デアリマス、ナゼカト申シマス、戰爭中
ハ比較的公債ヲ餘計出シ得ルノデアリマス
ガ、戰後ノ財政整理トナレバ、公債ニ賴ル
部分ヲ非常ニ少クシナケレバナラヌ、隨テ
稅ノ輕減ト云フコトハ遲レル譯デアリマス、
之ヲ日露戰爭ノ例ニ取ツテ見マシテモ、日
露戰爭ノ時ニ於キマシテハ、第一回第二回
ノ非常特別稅法ニ依リマシテ、租稅ヲ相當
増徴致シマシタ、其ノ増徴ニ當リマシテハ、
非常特別稅法ナルガ故ニ、戰後ニ於テハ輕
減スルト云フヤウナ建前ヲ執ツテ居リマシ
タ、而モ尙ホ其ノ輕減スルト云フ規定ヲ廢
止シ、戰時中ノ稅ト云フモノヲ、一應恒久
稅ニ直シテ續ケ、其ノ後明治四十三三年若
ハ大正三、四年ノ頃ニ、順次稅制整理ニ依
ツテ輕減シテ居リマス、今回ノ戰爭ハ戰爭
自體ガ長期戰デアリ、而モ其ノ後ノ戰後經
營ト云フコトハ、大東亞共榮圈ノ確立ニ依
リマシテ、非常ナル負擔デアリマスノデ、
旁、以チマシテ、戰後ニ於キマスル租稅ノ輕
減マデ考ヘマスレバ、増稅ノ狀態ハ相當長
ク續キ、而モ増稅ハ今回限りデナク、此ノ

次ニ於テモ財政需要ノ増加ニ從ツテアルモ
ノト考ヘテ差支ヘナイノデアリマス、ソレ
等ノコトガ總テ濟シタ後ニ於テ餘裕ガアレ
バ、ソレハ税ノ輕減ヲスルコトハ當然デア
ラウト思ヒマス、ソコマデ申上ゲナカッタ
ノデ、ツイ誤解ヲ生シダカト思ヒマスルガ、
サウ云フヤウナ趣旨デアルト云フコトヲ御
諒解願ヒタイト思ヒマス

○伊藤(五)委員 只今主税局長ノ御親切ナ
御答辯ヲ伺ツテ洵ニ安心ヲ致シタノデアリ
マス、今後トモサウ云フ心構ヘヲ以テ全國
民ヲ指導スル財政當局者トシテノ使命ヲ全
ウシテ貫ヒタイノデアリマス

次ニ御伺ヒシタイノハ、私ノ考ヘデハ此
ノ度ノ増税ハ劃期的ノモノデアリマスガ、
我が國ノ富力及ビ國民所得其ノ他ノ點ヨ
リ考ヘマシテ、此ノ度ノ増税ヲヤツテモ尙
ホ將來二回、三回、四回ト、増税ノ餘地ヲ
殘シテ増税シタモノト云フ考ヘヲ私ハ持ツ
テ居リマスガ、此ノ點ニ對シテ主税局長ハ
ドウ云フ考ヘヲ持ツテ居リマスカ

○松隈政府委員 今回ノ増税ハ前々議會、
即チ第七十七回帝國議會ニ提案サレマシタ
間接税ヲ中心ト致シマスル増税案トモ關聯
シマス、一聯ヲナスモノデアリマス、間接
税ヲ中心トスル増税案竝ニ今回ノ直接税ヲ
中心ト致シマスル増税案、兩者ヲ加ヘマス
ト、其ノ増徴額ハ相當巨額ニ上ツテ居リマ
ス、隨テ國民ノ負擔ニ影響スル所モ多大ナ
ノデアリマスガ、御話ノ如ク之ヲ以チマシ
テ大體増税ノ限度ニ到達シテ居ル、今後ハ
増税ハ非常ニ困難デアルトマデハ考ヘテ居
ライナノデアリマス、今後ニ於キマシテ、
先ニ御話ノアリマシタ國富ノ増大、國民所
得ノ増大ト云フコトモ期待サレマスシ、又

國民ノ税ニ依ツテ奉公シヨウト云フ意氣モ
揚ツテ參リマス致シマスレバ、増税ノ餘
地ハアルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、
唯増税致シマスニ當リマシテハ、立案ニ當
リマシテ慎重ヲ期シマシテ、其ノ國民經濟
ニ及ボス影響竝ニ國民生活ニ及ボス影響等
ヲ熟慮致シタ上、適切ナル案ヲ立デルヤウ
ニシテ參ラナケレバナラスコトハ申上ゲル
マデモナイ所デアラウト思ヒマス

○伊藤(五)委員 次ニ、或ハ前ノ委員ノ方
ガ質問サレタカモ知レマセヌガ、私ハ重要
ナモノト思ツテ御質問申上ゲルノデスガ、
今後恐ラク此ノ大東亞戰爭ノ性質ニ鑑ミテ
二回、三回ノ増税ガアルコトハ必至ト思フ
ノデアリマスガ、財政指導者タル大藏省ハ
今後此ノ増税ヲナスニ當リマシテハ、直接
税及ビ間接税ノ増税ヲナスニ當リマシテハ、
如何ナル指導方針ヲ以テ之ヲナサントスル
カ此ノ點ニ付テ大藏省ノ心構ヘヲ承ツテ置
キタイ

○松隈政府委員 直接税、間接税ヲ如何ニ
増税シ、隨テソレガドウ云フ風ニ按配サレ
テ行クカ、殊ニ今度ノ増税トシテハ直接税
ニ重キヲ置クカ、間接税ニ重キヲ置クカ、
斯ウ云フ御尋ネト解シテ御答ヘヲ申上ゲル
ノデアリマスガ、御承知ノ通り直接税ニハ
直接税ノ長所ガアリ、間接税ニハ間接税ノ
長所ガアルノデアリマシテ、租税ノ理論カ
ラ申シマスレバ、出來ルダケ直接税ノ方ヲ
多ク致シマシテ、間接税ノ負擔ヲ少クスル
ト云フノガ從來宜シイトサレテ居ツタノデ
アリマスガ、戰時下ニ於キマシテハ、多少
從來租税學的、財政學的ニ考ヘラレマシタ
理論ヨリモ一歩ヲ乘越ヘマシテ、負擔均衡
論ニ膠着スルコトナク、廣ク一般國民ニ戰

費ヲ負擔セシメルト、斯ウ云フ趣旨ヲ以チマ
シテ立案スルコトガ必要デアルト思フノデ
アリマス、其ノ意味ニ於キマシテ多少大衆
ノ負擔ト云フヤウナ感ジガゴザイマシテモ、
間接税ヲ増シマシテ、個々ノ人ニ取ツテノ
負擔ハ極メテ輕微デアリマシテモ、之ヲ集
積スルコトニ依リマシテ、相當程度ノ國庫
收入ヲ擧ゲ得ルヤウナ租税デアラナラバ、
此ノ際出來ルダケ採用シテ參リタイト、斯
様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、唯サウ云フ
風ニシテ間接税ヲ増徴スル、モウ少シ俗ナ
言葉デ申シマス、間接税ヲ漁ツテ行クト
云フノデアリマスガ、其ノ割合ニハ間接税
ガ上ラナイノデアリマス、是ハ御承知ノヤ
ウニ戰時下ニアツテ時局ガ緊迫シテ參リマ
スルト、消費ノ抑制ト云フヤウナ方面ガ行
ハレテ參リマス、例ヘバ奢侈品ノヤウナモ
ノハ段々製造禁止ニナリマス、ソレカラ各
種ノ物資ガ窮屈ニナリマシタ場合ニ、先ヅ
抑ヘラレマスモノハ間接税ノ課税ノ對象ト
ナルヤウナモノダト思フノデアリマス、例
ヘバ酒類ノヤウナモノハ税金ヲ相當上ゲテ
參ツタノデアリマスガ、酒ヲ造ル原料ノ方
ガ規制サレテ十分ニ量ガ伸ビマセヌカラ、
税率ハ相當上ゲマシタケレドモ、其ノ割合
ニハ税金收入ガ上ツテ居ラス、物品税ニ付キ
マシテモ奢侈的物品ニ對スル税率ハ世界ニ
比類ノナイヤウナ高イ税率ニナツテ居リマ
ス、併シ是等モ製造禁止デアリマス爲ニ、
税金收入トシテハ微々タル狀態ニ陥ツテ居リ
マスノデ、ヤハリ相當多額ノ租税收入ヲ上ゲ
マシテ、國庫財政ノ強化ヲ圖ルト致シマス
レバ、直接税ニ其ノ財源ヲ求メザルヲ得ナ
クナツテ參ルノデアリマス、ソコデ最近ニ

稅方面ニ於ケル税率ハ既ニ私ノ考ヘデハ相
當高イト思ツテ居リマス、殊ニ遊興飲食稅、
入場稅等ハ諸外國ニ比シテモ非常ニ高イノ
デアリマスガ、サウ云フ高率ヲ以テ課税シ
マシテモ、尙且ツ今回ノ増税後ニ於ケル昭
和十七年度ノ租税收入ヲ見マス、直接税
ノ割合ガ六三%程度デアリマシテ、隨ヒマ
シテ中々此ノ間接税ノ方ヲ比率的ニ高メル
ト云フコトハ困難ナヤウナ狀況ニアルノデ
アリマス、併シ間接税モ絕對ニ引上ゲル餘
地ガナイ譯デアリマセヌ、又間接税方面
ニ於テモ税率ノ引上ゲ考ヘテ、或ハ更ニ新
稅ヲ設ケル等ノ手段ヲ講ジテ參ラナケレバ
ナラスコトハ申上ゲルマデモナイコトデア
リマス

○勝委員長 伊藤君、御相談ガアルノデス
ガ、大藏大臣ガ見エマシタカラ、大藏大臣
ノ質問ヲ願ツテ、アナタノハ暫ク留保願ヒ
タイノデアリマスガ……

○伊藤(五)委員 モウ一、二點デ終ルノデ
ス

○勝委員長 ソレデハ簡單ニ願ヒマス
○伊藤(五)委員 只今新稅ト云フ御話ガ出
マシタカラ御尋ネスルノデスガ、現在租稅
體系以外ノドウ云フ新稅ヲ大藏省ハ考ヘテ
研究ヲシテ居ルカ、例ヘバ戰爭後拂戻條件ヲ
附シタル特殊ノ増稅ヲ工夫シテ實行スルコ
トモ私ハ宜イト思フノデス、斯ウ云フ問題
ニ付テモ御研究ニナツテ居ルカドウカ、ソ
レカラ國難犧牲稅ト云フノラ「ドイツ」デヤツ
テ居リマスガ、大東亞戰爭ト云フ大キナ戰
爭ニ當ツテハ、全國民ハ其ノ分ニ應ジ、一
ツ國家ニ御奉公シヨウト云フヤウナ、國難
犧牲稅、斯ウ云フヤウナモノニ付テハ御研
究ニナツテ居ルカドウカ、斯ウ云フ點ニ付

テモ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○松隈政府委員 將來ノ増稅ノ研究對象ト致シマシテ、最近ニ於テ「イギリス」ガ採用シタヤウナ戰後ニ於テ拂戻ヲ條件トシテ増率ヲスル、一種ノ稅ノ形ヲ持チマシタ強制貯蓄ニ類スルヤウナ方法ヲ考慮スルカドウカト云フ問題ニ付テモ、研究ハ致シテ居リマスガ、「イギリス」ノ如ク既ニ稅率ガ相當高クナリマシテ、是以上稅率ヲ上ゲルト云フノデハ國民ガ躍イテ來ナイト云フヤウナ限度ニ參ツテ居リマス、或ハ拂戻ヲ條件トスルト云フヤウナ方法モ考ヘラレルノデアリマスガ、我が國ニ於キマシテハ、現在ノ稅率ヲ以テ致シマスルナラバ、寧ろ拂戻ヲ條件トスルト云フヤウナ方法モ考ヘラレルノデアリマスガ、マダサウ云フヤウナ手數ヲ加味シナイ方ガ宜イカト思ツテ居リマス、又貯蓄ノ方面ニ於キマシテモ、稅ヲ利用シテノ強制貯蓄ニ行クマデニハ、マダ段階ガアルト、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ國難犧牲稅ト云フ御話ガゴザイマシタガ、ソレハ「ドイツ」ガ一九一九年カニ一回限リノ財產稅ト云フヤウナ形デ起シタコトノアル稅デアリマス、是モ財源調達ノ一ツノ方法デハアリマスゲレドモ、我が國ノ現在並ニ近イ將來ニ於テ財產ノ一部ヲ出サセテ、國庫收入ノ増加ニ充テルト云フヤウナ意味ノ租稅ガ適切カドウカト云フコトニ付テハ、今後更ニ研究スベキ問題デアリマシテ、今ノ所直チニ斯ウ云フ稅ニマデ行クト云フヤウナ考ヘハ持ツテ居ラナイヤウナ次第デアリマス

○勝委員長 ソレデハ河野密君

○河野(密)委員 大藏大臣ノ大變御忙シイ所ヲ煩ハシテ恐縮デスガ、稅ノコトヨリモ

多少範圍ガ廣クナルカト思ヒマスガ、經濟ノ新體制ノ根本ノ問題ニ付テハ、二點伺ツテ置クコトガ必要デハナイカト思ヒマス、先日大藏大臣ガ御話ニナリマシタ中ニ、公債ノ稅トノ關係ハ、割合ハ幾ラデナケレバナラヌト云フヤウナコトニハコダハル必要ハナイ、斯ウ云フ御考ヘデ、私モ同感デアリマスガ、ソコデ考ヘテ見タイト思フノハ、國庫ノ收入ヲ計ル大宗トシテ租稅政策ヲ考ヘル、公債ニ對シテハ少クトモ利拂ヒダケハ増稅デ賄ハナケレバナラヌト云フ理論デズツト來テ居リマシタ、私ハ是ハ今日マデノ限リニ於テハ正シカウタト思フノデアリマスガ、是カラ所謂經濟ノ運用ガ自由主義的ナモノカラ變ツタモノニナル、或ハ企業ノ整理合同ガ行ハレル、色々ナ點ニ於テ非常ニ大キナ變化ガ生ズレバ、租稅政策ガデ此ノ大キナ國庫ノ支出ヲ賄ツテ行クト云フコトハ少シ考ヘ直サナケレバナラヌ、尙ホ又貯蓄ノ獎勵ニ依ツテ國庫ノ財源ヲ得テ行ク、生産擴充ノ資金ヲ得テ行クト云フコトニ付テモ、今少シ考ヘ直ス必要ガアルノデハナイカ、謂ハバモウ少シク大キナ構想ト云フモノガ實際ニナイモノガラウカ、是ハ私ハ今日ノ當面シテ居ル一番大キナ問題デヤナイカト思フノデスガ、其ノ點ニ付テハ大藏大臣ノ御考ヘヲ先ニ承ツテ見タイト思フノデアリマス

○賀屋國務大臣 近來ノ經濟ノ組織運行其ノ他ノコトヲ考ヘテ見マスルト、丁度今御話ノアリマシタヤウナ考ヘノ閃キガ私ハ出ルノモ御尤モカト思ツテ居リマス、併シナガラ現在ニ於キマシテハ、近キ將來ニ於テハ私ハサウ云フ風ニ考ヘテ居リマセヌ、寧ろ今ノ稅及ビ國民貯蓄ノ蓄積デ行クト云フ

方針ヲ堅持シテ、之ヲ強化スルコトガ最も安全デアリマス、觀念的ニハ色々考ヘラレマセウガ、急ニ變化ヲサセナイ方ガ宜イノデアル、斯ウ云フ風ニ私ハ今思ツテ居リマス

○河野(密)委員 其ノ點ニ付テ少シク私ハ考ヘ方ガ飛躍シテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ今ノ内閣ノ責任デハアリマセヌケレドモ、一昨年第二次近衛内閣ガ出來マシテ、所謂基本國策要綱ト云フモノヲ決メ、ソレカラ或ハ經濟新體制ト言ヒ、或ハ金融新體制ト言ヒ、各種ノ所謂國策ノ根本方針ハ是ダト云フモノガ相當ニ出テ居リマス、是ハ内閣ガ選ツテ居リマスルガ、第一ニ私ハ斯ウ云フ基本國策要綱カラ金融新體制要綱ニ至ルマデ、ズツト流レテ居ル所ノ政府ノ方針ト云フモノハ、内閣ハ選ツテモ變ツテ居ラスノデハナイカト思フノデスガ、大藏大臣ハ其ノ點ハドウ御考ヘニナツテ居ルカト云フコトヲ一ツ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、若シソレガ變ツテ居ラナイト云フコトデアリマスルナラバ、其ノ線ニ沿ウタ何等カノ構想ト云フモノガ必要ニナツテ來ルノデハナイカト思フノデスガ、重ネテ御伺ヒ致シマス

○賀屋國務大臣 アノ基本國策要綱ハ大體御話ノ通りデアルト思ヒマス、實ハ私共ガ事變ノ前カラ考ヘテ居リマシタヤウナコトノ大體延長デアリマス、第一次近衛内閣ガ出來マシタ時ニ、私共ガ政策トシテ考ヘテ居リマシタノガ、大體計畫經濟、統制經濟ノ發展段階ニ應ジテ進ンデ來タモノデ、大キナ流れハ別ニ變リヤウハナイト思ヒマス、併シナガラアレデ參リマシテモ、大體今ノ稅、國民貯蓄及ビ國民ノ消費生活ト云フ意

味ノ考ヘ方デ、十分アレハコナシテ參レル體制デアルト私ハ思ツテ居リマス

○河野(密)委員 モウ一ツ御伺ヒシタイノハ、大藏大臣ハ北支開發會社ニモ御關係ニナツテ居リマシタシ、北支開發株式會社法案ガ出來、或ハ中支那振興株式會社法案ガ出來タ時分ニモ、政府ニ居ラレテ御關係ニナツテ居ラレタノデスガ、最近ノ大東亞共榮圈ノ確立ノ方針ト云フモノハ、此ノ北支開發株式會社ハ中支那振興株式會社ト云フヤウナモノトハ大體違ツタ方針デ御行キニナルノデアリマセウカ、ソレ等ノ線ヲ御踏襲ニナルヤウナ御考ヘデアリマセウカ

○賀屋國務大臣 只今ノ御質問ノ意味合ガ例ヘバ北支ニ於キマスル緊要ナル産業ノ發達ガ日支合辦事業ニ依ツテ、各事業毎ニ行ク、其ノ日本側ノ出資ハ北支開發會社ヲ通ジテ之ニ關與シ、尙ホ日本側ノ當該事業ニ付キマシテ、經驗ノアル事業家ガ併セテ出資スル、日本側トシテハ此ノ兩建デ參リマス、日支合辦事業デ行クト云フ行キ方ヲ致シテ居リマス、其ノ事業ノ統合調整ト云フ仕事ニ北支開發會社ガ當ツテ居リマスガ、ソレガ大體北支ノ企業形態デアリマス、中支モ略、似通ツタモノダト思ツテ居リマスガ、是ハ南方ニ於テハドウ行クカト云フコトニ付キマシテハ、今ノ北支ノ行キ方デ行クカ行カヌカト云フコトハ決ツテ居リマセヌ、差向ハアア云フ會社ヲ作リマセヌ、將來ドウ行クカト云フコトハ今後ノ研究ノ結果ニ俟ツコトデアリマス

○河野(密)委員 私ハ先程カラ御尋ネシテ居マスヤウニ、大東亞戰爭以來此ノ龐大ナル軍費ノ支辨、勿論日本ノ經濟力ハ餘力ヲ持ツテ居リマス、持ツテ居リマスガ、今マ

デノ租税ヲ増シテ行ク、ソレカラ貯蓄ヲ奨
勵シテ行クト云フコトダケデナク、今少シ
ク大キナ構想ガナイダラウカ、斯ウ云フコ
トデ極ク私ノ貧シイ意見ヲ申上ガマスナラ
バ、私ハ此ノ際政府ガ、例ヘバ戰時金融金
庫デアルトカ、或ハ重要物資管理營團デア
ルトカ、或ハ食糧營團デアルトカ云フヤウ
ナ、民間事業デヤツテハ採算ノ取レナイヤ
ウナ統制ナコトノミヲ政府ガ國營企業ト
シテオヤリニナルノデナクシテ、國營企業
ヲモット大キクシテ國庫ノ收入ヲ計ルト云
フ途ガ必要デハナイカ、モット端的ニ言ヘ
バ、國家ノ豫算ト云フモノハ歳出部面、所
謂今マデノ國家ノ公經濟トシテヤツテ居タ
部面ト、ソレカラ專賣ト云フ形デヤツテ居
タモノヲ國營企業ノ中ニ一纏メニシテ、大
キナヤリ方ヲスル途ハナイダラウカ、斯ウ
云フコトヲ漠然ト考ヘルノデアリマス、モ
ウ一ツハ大東亞共榮圈全體ヲ打ツテ一丸ト
スル所ノ、一ツノ大キナ國策ノ開發會社ト
申シマスルカ、營團ト云フカ、サウ云フモ
ノヲ設ケテ、ソレヲ全體トシテ其處ニ民間
ノ資金ヲモ吸收スルガ、國庫モ金ヲ出シテ
行クト云フヤウナ行キ方ヲ實地ニ實現スル
必要ガナイカ、ソレカラ更ニ單ニ貯蓄ノ獎
勵ト云フヤウナ形ニ於テ民間資金ヲ吸收ス
ルノデナク、或ハ社會保險ノ統合デアルト
カ、或ハ生命保險ノ國營デアルトカ云フヤ
ウナ形ヲ以テ、財源ヲ得テ行クト云フ行キ
方ハナイカドウカ、斯ウ云フコトヲ私ハ極
メテ素人的デアリマスガ考ヘルノデアリマ
スガ、其ノ點ニ付テハ大藏大臣ノ御考ヘヲ
伺ヒタイと思ヒマス

○賀屋國務大臣 國家ガ産業設備營團ヲ作
リマスシ、又戰時金融庫ヲ作りマス、是

ハ國家ノ産業全體ヲアア云フ風ニ持ツテ行
カウト云フ意味合デアリマセヌデ、戰時ノ
産業活動部面ニ於テ特ニ其ノ必要ガアルモ
ノダケヲ持ツテ行キタイと思ツテ居リマス、
戰時金融庫ニ致シマシテモ、其ノ融資ヲ
シ、投資ヲスル事業ハ必ズシモ採算ガ取レ
ヌト云フ譯デアリマセヌ、金融機關自體
トシテハ採算ガ取レルト云フ見込ガ立チ
ニクイト云フノデアリマシテ、私ハ多クハ
採算ガ取レル事業デアアル、併シソレガハツ
キリ分リマスノハ寧ロ後日ノコトニナル、
又今ノ目論見デハ採算ガ取レルト云フコト
ニナツテ居リマシテモ、果シテサウ行クカ
行カスカ分ルノガ後日ニナルモノデアリマ
ス、採算ガ取レル事業デアツテ、事前ニ採
算ガ取レルカ否ガハツキリ分ラヌ事業
ハ、寧ロ今言ツタヤウナ意味合デアルト思
ツテ、狙ヒハ其處ニ置イテ居リマス、ソレ
カラ各資源ノ開發等デアリマスガ、大キイ
構想ハ御説ノ如ク極メテ必要デアルト思ヒ
マスガ、其ノ手段ハ然ラバ一ツノモノデア
ルガ宜イカ惡イカト云フト、ソコハ私ハ説
ガ十分分レルト思ヒマス、北支ニ於キマシ
テモ、一事業一社主義ト云フノハ採ラナイ
デ、石炭ニ致シマスト、重要ナ炭鑛ヲソ
レゾレ分ケテヤツテ居リマス、或ハ中興
炭鑛或ハ井陘炭鑛或ハ大同炭鑛、現在ノ所
デハ寧ロ其ノ方ガ宜シイ、之ヲ一ツニ纏メ
ルト云フ考ヘハ私トシテ持ツテ居リマセヌ
シ、私ガ關與致シテ居リマシタ時モ、サウ
云フ考ヘ方ハ致シテ居リマセヌ、交通、通
信ノ如キモノハ性質上一ツノモノニ纏メル
必要ガアル、又サウヤツテ居リマスガ、ア
トハ必ズシモサウ行ク必要ハナイ、鹽ニ致
シマシテモ山東ノ鹽業ノ勃海灣内ノ長蘆鹽業

トハ別ノ會社デヤツテ居リマス、殊ニ南方
ナンカニナリマスルト「マレー」半島ト「フィ
リッピン」ト云フモノヲ一ツノ開發會社
デヤルガ宜イカト言ヘバ、多クハ私ハ今日
ノ場合豫斷ヲ致ス譯ニ參リマセヌガ、ヤハ
リ是ハ別ノ方ガ宜シイ、無理ニ一ツ致シマ
シテモ、其ノ中ニヤハリ各地域ト云フモノ
ヲ拵ヘナゲレバナリマセヌ、恐ラク南方ヲ
打ツテ一丸ト云フコトニハナラヌノデヤナ
イカ、斯ウ云フ風ナ豫想ヲ持ツテ居リマス
ガ、尙ホ是ハ今後ノ研究ニ俟ツコトデスカ
ラ、今明確ニ申上ゲル譯デアナイノデアリ
マス、國內ニ於キマシテモ機構ノ整備ト云
フコトガ、資金ノ集積ナドニモ無論關係ヲ
致シマスルガ、例ヘバ保險ノ國營ニ致シマ
シタラ、保險ガ二倍集ツテ資金ノ蓄積ガ二
倍ニナルト云フ風ニハナツテ行キ難イノデ
アリマシテ、是ハ何トシテモ機構ニ俟ツヨ
リモ國民ノ貯蓄スルト云フ熱意ガ九分九厘
ノモノデアリマシテ、機構其ノ他ノモノハ
寧ロ補助ノモノデアルト思ヒマス、國內
ノ事業ニ致シマシテモ、急ニ總テノ企業ヲ
國營ニ持ツテ行クコトハ兎ニ角實際論トシ
テハ私ハ時宜ニ適シナイト思フ、是ハ國營事
業ガ今ヨリ殖エナイト言フノデアリマセ
ヌガヤハリ是ハ個々ノ事情ニ應ジテ行クノ
デアリマシテ、又國營ニ致シマシテモ、財
政專賣ノ如ク收入ヲ得ルコトヲ主タル目的
トスルモノト、收入ハ得ナイガ、寧ロ政府
會計ノ負擔ニナツテモ國營ニスルト云フ風
ナ、一國ノ資金集配分ノ見地カラ言ヘバ、
同ジ國營ト申シマシテモ非常ニ其ノ動向ハ
違ツタモノガ相當アルノデアリマス、ヤハ
リ是ハ個々ニ國營ニ適スル必要ナルモノハ
ヤル、民營ノ方ガ能率ガ宜シイモノハ民營

デ行クト云フ風ニ私ハ依然トシテ考ヘテ行
キタイ、斯ウ思ツテ居リマス

○河野(密)委員 意見ノ違ヒハ其ノ儘ニシ
テ置キマシテ、次ノ質問ヲ致シマスガ私ハ
現在ノ増稅案ノ大體ノ趣旨ハ正シイト思ヒ
マス、又現在ノ所得稅ヲ中心ニシテ作ラレ
テ居ル此ノ體系デアアル限リニ於テハ、斯ウ
云フ風ナ行キ方ガ宜シイト思フノデアリマ
ス、ケレドモ所得稅ヲ中心ニシテ行クト云
フ行キ方ハ、或ハ私ノ獨斷カモ知レマセヌ
ガ、大體ニ於テ自由主義的ナ行キ方ダト思
フノデアリマス、是ノ限リニ於テハ私ハ斯
ウ云フ行キ方ガ正シイト思フノデアリマス
ケレドモ、先程申シマシタヤウニ、新シイ
構想ヲ全般的ニ必要ト致スルナラバ租
稅體系ニ付テモ考ヘナケレバナラス、色々
ナ委員カラ出マシタ非常手段ノ稅制モ考ヘ
テ行カナケレバナラナクナル、サウナリマ
スルト、是ハ獨リ稅ダケノ分野ニ於テ稅ノ
問題ヲ取扱フノデナクシテ、非常手段ヲ
執ル場合ニ於テハ、ソレト睨合シタ經濟全
體ノ考ヘ方ヲシナケレバナラナクナルモノ
ダラウ、斯ウ思フノデアリマスガ、大藏大
臣ハ租稅體系全體ニ付テ其ノ率ヲ上ゲル、
或ハ率ヲ下ゲル、動カスト云フコトニ依ツ
テ、現在ハ大體稅ノ問題ハ解決シ得ル、其
ノ間ニ今般出マシタヤウナ廣告稅デアルト
カ、或ハ電氣瓦斯稅デアルトカ云フヤウナ
新シイモノヲ少シジツ加ヘテ行クトニ依
ツテ大體ハ行キ得ルモノ、斯ウ云フ風ニ
御考ヘニナツテ居リマスルカ、ソレトモ此
ノ分類所得稅、綜合所得稅ノ稅率ヲ動カス
ト云フコト、或ハ免稅點ヲ引下ゲル、基礎
控除ヲ引下ゲルト云フヤウナコトダケデハ
行キ得ナイ、何カソコニ新シイ構想ヲ必要

トスルノデハナイカト云フ點ニ付テハ、ドウ御考ヘニナリマスカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シマス。

○賀屋國務大臣 大體私ノ感ジヲ申上ゲマス、根柢的ニ構想ヲ變ヘルト云フ必要ハ起ラスト思ヒマス、併シ只今デハ、營業稅デアルトカ、アア云フ風ナ補完稅ノ納稅ト云フコトハ餘リ問題ニナリマセヌ、人ニ依リマシテハ、寧ロ是ハ減少スル方ガ宜イデハナイカト云フ說ノ方モアルヤウナ事態デアリマス、部分的ニハ今マデノ「バランス」ヲ其ノ儘出シテ行クト云フダケデハ濟ミマセヌ、相當色々考ヘ方ヲシナケレバナラス、殊ニ稅ハドウシテモ經濟情勢ニ即應シテ行カナケレバナラス部面ガアリマス、其ノ方面カラ考ヘマシテ、相當ノ變化ハアリ得ルト思ヒマス、併シ根柢カラ様相ガ變ルト云フ風ニハ考ヘテ居リマセヌ。

○河野(密)委員 次ニ大藏大臣ニ御尋ネシタイノハ、大藏大臣ハ物價ノ關係ヲドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居ルカト云フノデアリマス、大藏大臣ガ會テ物價對策要綱ヲ御作リニナツタ時分ニハ、大體國際的ナ水準ニ物價ヲ持ツテ行クト云フコトデアリ、其ノ後ニ於キマシテハ物價ヲ出來ルダケ抑制シテ行クト云フコトデアツタト思フ、其ノ抑制ハ色々議論ガアリマシタガ、或ハ生産費價格デアリマス、或ハ適正價格デアルトカ、色々ナコトヲ申シテ居リマシタガ、今日ニ於テ物價ノ基準ト云フモノヲ一體ドウ云フ所ニ置クベキデアリマセウカ、此ノ物價ノ基準ト云フモノト睨合ハシテ、今度ノ増稅ト云フモノガ一般國民ノ生活ノ上ニドレダケノ切下ヲ要求シテ居ルモノデアルカト云フコトハ、是ハ私ハ重大ナ問題ダ

ト思フノデアリマス、今マデノ考ヘ方ハ物價ト云フモノハ、標準ガナイト言ヒナガラ、大體何カ國際的ナ標準ヲ持ツテ居タノデハナイカト思フノデアリマス、今日ハ全ク國際的ナモノカラ切離サレテシマツテ居リマス、切離サレタ場合ニ、其ノ物價ノ基準ト云フモノヲ一體何處ニ置クノデアルカト云フコトデアリマス、或ルモノニ於テハ自由ニ上ゲ得ル立場ニモアルシ、或ルモノニ於テハ、之ヲ適當ニ引下ゲルコトモ可能ナ事態ニナツテ居ルト私ハ思フノデアリマス、其ノ點ニ付テ御考ヘヲ承リタイト云フノト、今度ノ増稅ニ依ツテ物價ハ數字ガ示スヤウニ相當ニ高クナツテ參ツテ居リマス、此ノ物價高ヲ織込シテ此ノ増稅ヲ實施シタ場合ニ於テ一般國民ノ生活ト云フモノハドウ程度ニマデ現狀ヨリモ切下ゲルト云フヤウナコトヲ御狙ヒニナツテ居ルノカト云フコト、此ノ二ツノ點ハ少シ關聯シテ居ナイヤウデアリマスガ、同ジ物價ノ問題デアリマスカラ、御尋ネ致シタイト思ヒマス。

○賀屋國務大臣 物價ニ付キマシテハ、コチラノ意ノ儘ニナラナイ英米系統カラ重要ナル物資ヲ輸入致スト云フコトガ、非常ニ國防經濟上國民生活ノ上ニ重要ナル時代ニ於キマシテハ、爲替相場ニ於キマシテモ、物價問題ニ於キマシテモ、其ノ觀點ヲ離レテ處置スルコトガ事實不可能デアリマス、ソレデ私共ハ前ノ物價政策ニ付テ其ノ水準ヲ決メマス時ノ考ヘ方トシテハソレヲ根柢ニ致シテ居リマス、所ガ只今ハ其ノ必要ハナクナリマシテ、私ハ物價ハ安定スルガ宜シイ、安定ノ程度ハモウ既往ニ遡ル必要ハナイ、大體現狀ヲ基礎トシテ、ソレニ所謂均衡ヲ得ナイモノガアレバ、是ハ修正ヲ致

ス必要ガアリマスガ、現狀ニ於テソレニ安定スルガ宜シイ、寧ロ物價ヲ極力引下ゲルト云フヨリモ、外ノモノモソレニ應ジテ動カシダガ宜シイ、斯ウ云フ考ヘ方ヲ致シテ居リマス、ソレカラ今回ノ増稅ト國民生活ノ關係デアリマスガ、今回ノ増稅ハ所得稅ニ於キマシテ基礎控除五十圓以上ノ者ニハ少クトモ一割ノ分類所得稅ガ課カルノデアリマス、併シナガラ家族控除ガ相當ニ大キイモノデアリマシテ、例ヘバ妻子一人ゾツアリマス人ニハ九十圓ノ月收ガアリマシテモ一厘ノ所得稅モ課ラスト云フヤウナ譯デ、家族ノ多イ人ニ取リマシテハ、從來所得稅ヲ負擔シテ居ツタモノガ、今回ノ稅法ノ改正ニ依リマシテ寧ロ負擔ヲシナイ人モ出來テ來ル、隨テ一般ノ生活水準ト致シマシテハ、前ノ稅ノ時ヨリモ此ノ直接稅ニ依ツテ、切下ゲナケレバ納稅ハ出來ナイト云フコトハ少イト思ヒマス、寧ロ同ジ收入ヲ得ナガラ獨身デアリ、或ハ家族ガ少クテ比較的裕カデアリマシタモノガ、多數ノ家族ヲ擁シテ居ル人ニ稍、近クナツテ參リマスガ、多數ノ家族ヲ擁シテ居ル人々ニ取ツテハ餘リ生活ノ脅威ヲ受ケルコトナクヤレルノダラウト思ヒマス、多數ノ所得者ハ無論増稅ニ依ツテ負擔ヲ蒙リマスガ、是ハ寧ロ生活ノ切下ト云フ概念ヨリモ、裕カニ消費ヲ致シテ居リマシタナラバ、其ノ點ヲ切詰メレバ出來ル譯デアリマス、所謂生活問題ニ觸レル程ノコトヲ考ヘルコトモナカラウカト思ツテ居リマス。

○河野(密)委員 關聯シテ家族手當ノ問題ヲ御伺ヒシタイ、先日豫算總會デシタカ、大藏大臣、或ハ大藏當局カラ一億二千萬圓ノ家族手當ノ増額ト云フコトヲ御發表ニナ

ツテ居リマス、是ハ獨リ官吏ノミナラス市町村其ノ他ノ吏員、公吏ニモ及ンデ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ガ補助ヲナサレル、家族手當分トシテ支給ヲナサレルト云フコトデアリマス、ソレハ大體分與稅デオヤリニナルノデアリマス、ソレトモ特別ノ補助金ノ形デ交付ヲナサルノデアリマス、補助金ノ形デナサレルトスレバ是ハ如何ナル團體ニ對シテモ、適當ナル率ニ依ツテ交付サレルノデアリマス、其ノ點ヲ御伺ヒ致シマス。

○賀屋國務大臣 只今ノ分與稅ノ財源ノ申デ、特ニ補助ヲ要スルモノヲ出スト云フ考ヘハアリマセヌ、恐ラク分與稅デナク別ノ補助ノ形ニナルト思ヒマスガ、將來尙ホ分與稅ニ付テ考ヘマシタ場合ニハ、結局ソレダケノモノハ分與稅ガ増加サレテ、地方稅源ガ全體ニ互ツテ殖エル、若シ分與稅デ行ケバサウナル、現在ノ分與稅ノ中デ負擔セシメルト云フノデハナク、ソレハ政府ノ補助ヲ要スルト認メタ場合ノ話デアリマス、地方ノ財政狀況、現在受ケテ居ル分與稅及ビ其ノ收入デ賄ヘル所ニハ補助シナイ、賄ヒガ困難ト認メマシタ場合ニハ、一部、或ハ物ニ依リマシテハ全部出スコトガアルカ知レマセヌガ、地方財政ノ狀況ニ依ツテ國庫ヨリ財源ヲ補助致シタイト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス。

○河野(密)委員 サウ致シマス、分與稅中ニ織込マナイ補助金ヲヤル、地方團體ノ財政狀況ヲ見テ補助スルモノモアル、シナイモノモアル、斯ウ云フ御説明デアリマスガ、地方團體ノ現在ハ非常ニ仕事ガ殖エテ居リマシテ、殆ド國政事務ノ尖端ヲ引受ケテ居ルヤウナ狀態デ財政需要ガ非常ニ殖エテ居

ルノデアリマスガ、是等ニ付テハ分與稅ノ方面デカ、或ハ補助金ノ形ニ於テカ、兎ニ角家族手當ヲ出スト云フコトヲ國策トシテ御決メニナツタナラバ之ヲ御考慮ニナル方ガ宜シイノデアリカト思フデアリマスガ、此ノ點ヲ重ネテ御伺ヒ致シマス。

○賀屋國務大臣 考慮致ス用意ハアルノデアリマス、實情ニ應ジテ補助致シマス、尙ホ小學校教員ニ於テハ今同増加致シマシタ分モ、從前ノ通り半分ハ別ニ地方團體ノ財政ノ狀況ヲ詮議致シマセズ、補助ニ付テ考慮致シマス。

○河野(密)委員 宜シウゴザイマス

○勝委員長 藤本君

○藤本委員 大藏大臣ニ二、三御尋ネ致シマス、既ニ伊藤委員カラ御尋ネガアリ、又主稅局長ヨリ御答辯ガゴザイマシタガ、尙ホ一應大藏大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、私見デアリマスガ、戰時財政、運營ノ要諦ハ前ノ世界大戰ニ於テ「ドイツ」或ハ「イギリス」ノ執リマシタ事例等カラ考ヘマシテモ、可及的ニ増稅政策ヲ強化致シマシテ、出來ルダケ財政の基礎ノ堅實ヲ維持スルト云フコトニアルト思フデアリマスガ、併シ増稅政策ニハ自ラ限度ガアリマシテ、此ノ限度ヲ越シマスレバ増稅政策自體ノ目的モ圓滑ニ遂行シ得ナイノミナラズ、又國民生活ノ安定ヲ脅威シ或ハ生産力ノ擴充ニモ影響ヲ及ボスト云フヤウナコトニモナリマスルカラ、此ノ限度ニ付テハ大イニ考慮シナレバナラスト思フデアリマス、尤モ觀念論ト致シマシテハ無限課稅論モアリマス、又非常ナ烈々タル愛國心ノ發露カラ、如何ナル高率ノ稅金デモ甘受スルト云フヤウナ心構ヘモアリマス

ガ、併シ現實ニ財政運營ノ衝ニ當リマシテハ斯カル限度ヲ守ルト云フコトガ必要デアラウト思フデアリマス、是ハ英國ノコトデアリマスガ、今次戰爭勃發シテ以來、「サイモン」「ウッド」藏相ガ數次種々ノ増稅ヲヤツテ居リマスガ、昨年十月デアリマシタカ、所得稅ガ「ボン」ニ付キ戰前ノ基準率五「シリ」六「ペン」ガ十四「シリ」ニナリ、戰時ノ超過利得稅ガ創設當時ノ六〇%デアリマシタノガ一〇〇%七五ニナツタ、又遺產稅ガ最高遺產額ノ六五%ニナツタ、是デ以テモウ既ニ増稅政策ノ限度ニ達シタト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、又「ドイツ」ニ於キマシテモ戰費ノ五〇%ガ稅デ、アトノ五〇%ガ公債デ、之ヲ以テ限度トスルモノノ如クデアリマス、

翻リマシテ我が國ノ狀態ヲ見マス、昭和十二年度カラ最近マデ五回ノ増稅ニ於テ通算二十五億ノ増稅ニナツテ居リマス、更ニ昨秋ノ間接稅中心ノ増稅ニ依リマシテ大體六億三千萬圓、或ハ煙草ノ値上ニ依リマシテ、增收一億四千萬圓、或ハ鐵道運賃ノ引上ニ依リマシテ增收二億圓、更ニ今回ノ増稅ニ依リマシテ大體平年度ニ於テ十一億餘萬圓、斯ウ見マス、大體ニ於テ昭和十二年度カラ今マデ六年間ニ四十六、七億ニナルノデアリマシテ、昭和十一年度ノ實行豫算ノ租稅全體ノ十二億四千五百萬圓ノ四倍近クニナル譯デアリマス、ソレデ我が國ノ現在ニ於ケル國民ノ所得、或ハ富ノ程度、言ヒ換ヘマス、國民ノ擔稅力カラ判斷シマスト、ドノ程度ガ限度ニナツテ居ルカ、言ヒ換ヘマス、今日マデノ増稅額ヲ以テシテ、我が國ノ擔稅力、經濟力カラ言フト、モウ限度ニ達シテ居ルカドウカ、或ハマダ餘裕綽綽

綽トシテ居ルカドウカト云フコトヲ一ツ御尋ネ致シタイノデアリマス

○賀屋國務大臣 今回ノ増稅マデニ於キマシテ、増稅ニ依リマシテ收入ガ増シマス、又所謂自然增收等ガアリマシテ、稅ト致シマシテハ豫算デハ昭和十一年度ノ六倍程度ニナツテ居リマス、其ノ中ニハ今ノ兩方ノ因子ガアルノデアリマス、只今ノ稅率其ノ他カラ考ヘマス、未ダ「イギリス」ノ如キ程度ニハ達シテ居ナイト思ヒマス、北米合衆國ハ一見低イヤウニ見エマスガ、是ハ御承知ノ如ク「フエデラル・ガヴァメント」ノ稅デアリマス、「ステート・ガヴァメント」ノ稅ヲ入レマス、相當高率デハナイカト思ツテ居リマス、「ドイツ」ナドモ最高率ハ日本ヨリモ低イガ平均ハ日本ヨリモ高イカト存ジマス、斯ウ云フ觀點カラ致シマシテ、マダノ増稅ノ餘裕ガ絕對ニナイトハ言ヘナイト思ヒマス、然ラバ綽々トシテ餘裕ガアルカト言ヒマス、ドウモサウモ言ヒ兼ネル、勿論相當ナ所ニハ參ツテ居リマス、又絕對ニ増稅ノ餘裕ナシトハ思ツテ居リマセス、ソレカラ是ハ御尋ネノ中ニハナカツタノデアリマスガ、増稅以外ニ所謂自然增收、國民ノ所得ノ増シマスコトニ依ツテノ稅收、是ハ相當マダ増シテ參ル、斯ウ云フヤウナ考ヘ方ヲ私ハ致シテ居リマス

○藤本委員 今ノ御答辯ニ依リマシテ、斯様ニ考ヘテ宜イ譯デアリマス、餘裕ハ綽々トシテハ居ラスガ、マダ増稅ノ限度ニハ達シテ居ラス、併シ今日程度ノ時局ナラバ、増稅ノ上カラ見レバ此ノ程度ノモ「デ」宜イ、尙ホ將來或ハ國民ノ所得ヤ國富ガ増加シ、又更ニ長期戰ニナリ、敵性國家ガ更ニ出現スルナラバ、ソレヲ擊滅スルニ要スル

國費ノ負擔トシテハマダ増稅ヲヤル、ダガ現在ハ是レ以上増稅ヲヤラナイ、斯ウ云フヤウナ意味ニ解釋シテ如何デスカ

○賀屋國務大臣 大體ハ今御述ベニナリマシタヤウナコトデアルト思ヒマス、唯假ニ十八年ニ至リマシテモ臨時軍事費ノ額ハ十七年度ト同ジダトシマスナラバ、此ノ上増稅セヌカト云ヒマス、是ハ必ズシモサウハ行カナイト思ヒマス、現在ノ國債ト稅トノ割合ガ無論ニデ宜イトハ思ヒマセヌ、又國家ノ經濟力ガ本デアリマスカラ、一時稅ガ宜イ割合マデ上リマシテモ、ソレデ國家ノ財政ハ喜ブベキモノトモ必ズシモ私ハ思ヒマセヌ、度々申上ゲマシタヤウニ生産力擴充、國民ノ資金蓄積、國民貯蓄ノ増加、ソレカラ國民生活ノ安定ト、其ノ三點ヲ考ヘマシテ、其ノ三點ニ大キナ支障ヲ來サズシテ稅額ヲ増シマス考案ガ付キマスレバ、是ハ増シテ行ク積リデゴザイマス

○藤本委員 次ニ大東亞共榮圈内部ニ於ケル關稅政策ニ付テ御尋ネ致シマス、大東亞共榮圈ニ付キマシテハ共存共榮ノ理念トシテ居ルト云フコト、更ニ共榮圈内部ノ諸國或ハ諸民族ノ經濟狀態、或ハ産業狀態、或ハ貿易政策或ハ文化ノ程度、斯ウ云ツタコトヲ考ヘテ見マス、大體ニ於キマシテ我が國ハ工業國デアアルガ、我が國以外ハ概ネ農業國デアアル、又彼等ハ我が國ニ對シマシテ原材料ヲ提供スル、我ハ之ニ加工シテ製品トシテ出スノダ、斯ウ云ツタ見地カラ考ヘマス——關稅ト申シマス、大體直グニ財政關稅トカ保護關稅トカ報復關稅ナドガ考ヘラレノデアリマスガ、今後ニ於キマシテハコンナモノハ新規ナ構想工夫ヲ要スルヤニモ、愚見デアアルガ考ヘラレマス、又

現在マデヤツテ居リマシタウニ、輸入ノ許可制度トカ、或ハ輸入割當制度ナドモ、是ハ許スベキデハナイカト思フノデアリマス、或ハ又爲替管理制度ガ必要デアルトシテ、其ノ支拂清算制度ハ今後ドウスルカ、或ハ又金本位——金デ最後ノ國際貸借ノ決濟ヲアル、サウスレバ爲替ノ補償ヲドウスルカ、斯ウ云ツタ色々ノ問題ガ浮カシデ來ルノデアリマシテ、是等關稅政策ヲ繞ル一聯ノ重要ナ問題デハナカラウカト思ヒマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテ、色々御差支ヘモアルカモ知レマセスガ、御差支ヘノナイ程度デ一ツ大藏大臣ノ御抱負御經綸ヲ伺ヒタインデアリマス

○賀屋國務大臣 從來ノ關稅政策ガ所謂保護關稅、財政關稅ノ大體二點カラ出テ居リマスコトハ御述ベニナリマシタ通りデアリマス、唯國際經濟ガ自由經濟デアリマセスノデ、輸入モ輸出モ計畫的ニ行ヒマス爲ニ、所謂其ノ色彩ガ相當變ツテ參リマシタ、然ラバ變ツテ參ツタカラ全然關稅ガ必要デナイカト云フト、マダ其ノ結果ニハ行カスト思ヒマス、一定ノ輸出入ニ付テハ量ハ決メマスガ、兩地ノ價格ノ差ト云フモノガアリ、又アルノガ宜シイ、當分アルト致シマスレバ、其ノ調整ノ意味ニ於テ、單純ニ其ノ事業ニ關係シテ居リマス者ガ、唯其ノ偶然ノ理由ニ依ツテ得ル利得ヲ個人ニ歸屬セシメルコトハ適當デアリマセヌカラ、之ヲ國家ガ收納スルト云フ意味ノ餘地ハ、私ハマダ殘ルデアラウト存ジマス、ソレカラ又財政關稅的ニ消費稅ヲ課スル意味ニ於キマシテ、關稅制度ト云フモノガ全然之ヲ用ヒルノ途ガナイ時代ニ至ツタカト云フト、是ハマダ考慮ノ餘地ガ相當アルノデハナイカ、隨テ

大東亞共榮圈內ノ各地ノ物價ガ將來ドノ邊ニ安定シマスカ、又交流物資ノ種類等ニ依リマシテ、又各地ノ財政事情ニ應ジマシテ、今後ノ實情デ考ヘテ行キタイ、單純ニ最早共榮圈內デアルカラ關稅的ノモノハ全部ナクナル、斯ウモ考ヘテ居リマセヌ、尙ホ爲替決濟ニ付キマシテハ、結局ハ物ト物トノ交換デアリマスガ、地域相互間ノモノガビツタリ出合ヒヲ得ルト云フコトハ、必ズシモ所期スルコトガ出來マセヌ、又東亞共榮圈全體ガ一體の觀點ニ立ツテ物資ノ交流ヲ致シマス結果ハ、必然的ニ地域ト地域トノ間デ一方ハ受取ガ多クナリ、一方ハ支拂ガ多クナルト云フノハ當然デアリマス、之ニ付テノ理想ハ日本銀行ヲ中心ト致シマシテ其ノ出合ヒヲ調整スル、日本銀行ニ各地ノ主要銀行ガ預金ヲ持チマシテ、ソレデ調整ヲシテ行ク、尙ホ大キイモノニ付キマシテハ或ハ其處ヘ的確ナ「クレヂット」デアリマスとか、或ハ國債ト申シマスカ——地域ニ依ツテハ國債デモアリマセヌガ、サウ云フヤウナ確定ノ債權債務關係ヲ作ル、斯ウ云フヤウナコトデ調整ヲシテ參リタイト思ツテ居リマス、大體通貨ノ方ハ全部管理通貨デ參リタイト思ヒマス、ソレデ金銀ト云フモノヲ通貨價值ノ觀念カラ排除シテ參リタイト思ヒマス、但シ通貨問題ハ其ノ住民ノ通念

タイト思ヒマスガ、根本ハ管理通貨制度デ參リタイ、斯ウ云フ考ヘデアリマス
○藤本委員 詳細ナ御答辯ヲ戴キマシテ有難ク思ヒマスガ、今ノ輸入許可制度、輸入割當制度、是ハ御所管ガ違フカモ知レマセヌガ、其ノ點ニ付テ若シ承レタラ承リタイト思ヒマス
○賀屋國務大臣 只今ノ所デハ南方カラ如何ナル物資ヲ持ツテ參リマスカ、先ヅ現地ニ於ケル獲得物資、ソレヲ運ブ手段ノ輸送機關、是ガ事實上一切ヲ占メルモノデアリマス、コチカラ持ツテ參リマスモノハ日本ニ於ケル各種類ノ物資ノ總生産額、之ヲ内地ニ於テ如何ニ需要シ、滿洲、北支ニ於テ如何ニ需要シ、南方ニ如何ニシテ出スカ、全體ノ計畫ノ上カラ致シマシテ、此ノ方面カラノ配分ヲ致シマス、是モヤハリ結局ハ物資ノ總量及ビ輸送力ニ制約サレテ、其ノ計畫ガ決マル部分ガ多イト存ジテ居リマス

收支均衡ニ對シテ一翼ヲ擔ツテ居ル稅ノ觀點カラ申シマシテモ、今後財政監督ト云フコトニ付キマシテハ、極メテ嚴正ニシテ妥當ナル心構ヘ及ビ其ノ實踐方法ヲ考ヘルベキデハナカラウカト思フノデアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテ大藏大臣ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス
○賀屋國務大臣 本年度ノ豫算ハアノ百八十億ノ臨時軍事費ヲ十七年度分ト假定致シマスレバ——御承知ノヤウニ是ハ普通豫算ノヤウニ年度ノ區分ガゴザイマセヌカラ、念ノ爲ニ申上ゲルダケデアリマスガ——假定致シマスレバ二百六十餘億トナル、其ノ中カラ一般會計ノ中カラ臨時軍事費ニ財源ヲ繰入レマス約二十五億ノ重複ヲ除キマスレバ、二百四十億圓餘ノ巨額ノモノニナルノハ御話ノ通りデアリマス、極メテ巨額ナル財政支出デアリマス、此ノ相當ナル額ガ國民ノ納稅ニ依ツテ支辨セラレ、又今ハ國債トシテ支辨セラレテ居リマスモノモ、結局ハ所謂國民ノ負擔ニ歸屬スベキモノデアリマス、御話ノ如ク厘毫モ苟クモシナイト云フコトニ付テハ、十分ニ注意ヲ拂ツテ行カナケレバナラヌノデアリマシテ、政府部內ニ於テモ左様ニ相戒メテ居リマス、又獨リ金錢ノミナラズ物資ニ付キマシテモ同様重大デアリマシテ、凡ユル物資ガ最モ效率ヲ上ゲルヤウニ致シマシテ、眞ニ力強キ軍備ノ物的設備ヲ致シ、國內ノ生産力増強ノ爲ニハ、足ラズ勝チナル一片ノ鐵モ大切ニ致スト云フ心構ヘハ、御話ノ如ク極メテ大切デアラウト思ヒマス、其ノ方面カラ致シマシテ十分ニ支出ニ注意ヲ致シテ參ルト云フコトハ常ニ相戒メテ居ル所デアリマス、唯先日モ申上ゲタコトガアルノデ

○藤本委員 モウ一ツ御尋ネ致シタイト思ヒマスガ、十七年度ノ豫算ハ軍事費ヲ入レマシテ二百六十數億圓ニナルノデアリマシテ、我が國空前ノ豫算デアリ、又稅額デアアルノデアリマスガ、併シ國民ノ心構ヘトシマシテハ、大東亞戰爭ヲ戰ヒ抜ク爲ニハ、凡ユルモノヲ犠牲ニスルト云フ信念、覺悟ヲ持ツテ居リマス、併シ財政ノ御當局ト致サレマシテハ、戰爭ガ大規模デアリ、大消耗戰デアリ、又今後幾ラ掛カルカモ知レナイト云フヤウナ觀點カラシマシテ、一物ト雖モ其ノ使用ニ於テハ最高ノ效率ヲ上ゲル、一錢ト雖モ浪費セヌト云ツタ信念及ビ其ノ現實ニ於ケル實行ガ必要デアラウト思フノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ龐大ト云フカ、或ハ巨額ト云フカ、此ノ財政、而シテ其ノ

○藤本委員 莫ウ一ツ御尋ネ致シタイト思ヒマスガ、十七年度ノ豫算ハ軍事費ヲ入レマシテ二百六十數億圓ニナルノデアリマシテ、我が國空前ノ豫算デアリ、又稅額デアアルノデアリマスガ、併シ國民ノ心構ヘトシマシテハ、大東亞戰爭ヲ戰ヒ抜ク爲ニハ、凡ユルモノヲ犠牲ニスルト云フ信念、覺悟ヲ持ツテ居リマス、併シ財政ノ御當局ト致サレマシテハ、戰爭ガ大規模デアリ、大消耗戰デアリ、又今後幾ラ掛カルカモ知レナイト云フヤウナ觀點カラシマシテ、一物ト雖モ其ノ使用ニ於テハ最高ノ效率ヲ上ゲル、一錢ト雖モ浪費セヌト云ツタ信念及ビ其ノ現實ニ於ケル實行ガ必要デアラウト思フノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ龐大ト云フカ、或ハ巨額ト云フカ、此ノ財政、而シテ其ノ

○藤本委員 莫ウ一ツ御尋ネ致シタイト思ヒマスガ、十七年度ノ豫算ハ軍事費ヲ入レマシテ二百六十數億圓ニナルノデアリマシテ、我が國空前ノ豫算デアリ、又稅額デアアルノデアリマスガ、併シ國民ノ心構ヘトシマシテハ、大東亞戰爭ヲ戰ヒ抜ク爲ニハ、凡ユルモノヲ犠牲ニスルト云フ信念、覺悟ヲ持ツテ居リマス、併シ財政ノ御當局ト致サレマシテハ、戰爭ガ大規模デアリ、大消耗戰デアリ、又今後幾ラ掛カルカモ知レナイト云フヤウナ觀點カラシマシテ、一物ト雖モ其ノ使用ニ於テハ最高ノ效率ヲ上ゲル、一錢ト雖モ浪費セヌト云ツタ信念及ビ其ノ現實ニ於ケル實行ガ必要デアラウト思フノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ龐大ト云フカ、或ハ巨額ト云フカ、此ノ財政、而シテ其ノ

アリマスガ、只今デハ事ヲ敏速ニ運ビ、各部ガ極メテ能率ヲ上ゲル必要ガアリマスノデ、例ヘバ支出ノ時期ヲ誤リマスト其ノ效果ヲ發揮シナイ場合モ多イノデアリマスカラ、所謂支出ノ觀點カラノミ強ク各部ヲ縛ツテ行クト云フ考ヘハ持チマセス、各部ガ能ク減メ、御話ノヤウナコトヲ心ニ體シ、一方最高能率ヲ上ゲルト云フ眞ノ心構ヘデ行ク、自分ノ方ニ取ツタ豫算デアルカラ、是ハ勝手ト言フノハワカシイノデアリマスカラ、自由ニ使ツテ宜イト云フ心持ハ無論從來モナイ筈デアリマスガ、全然サウ云フ氣持ヲ持タナイデ行クコトニ努メタイト思ツテ居リマス

○藤本委員 指導方針ヲ御示シ下サツタノデアリマスガ、尙ホ希望ト致シマシテ、勝戦ノ場合ハ政府モ國民モ氣ガ大キナルノデアリマス、又公經濟ハ私經濟或ハ競争經濟ノ場合ノ如クニ其ノ運營ノ合理性ハ期シ得ラレナイノデアリマスカラ、何卒今後ニ於キマシテハ只今仰セニナリマシタヤウナ御方針デ、嚴重ニ御實行遊バサレンコトヲ御願ヒ致シマス、私ノ御尋ネ申上ゲタイコトハ是デ終リマス

○勝委員 森田君

○森田(福)委員 大藏大臣ニ數點御尋ネ申上ゲテ見タイノデアリマス、事變始マツテ以來毎年増稅ヲヤライ年ハナイ、サウシテ今回ハ一番大キナ増稅ニナツテ居ルノデアリマスガ、私ハ此ノ増稅ヲヤルコトニ依ツテ物價ガ上ル、物價ガ上ルカラ國民ノ生活費ガ膨脹シテ來テ、其ノ結果ガ月給取デアルトカ、其ノ他ノ方面ノ手當等ノ増給ヲシ、又商人ノ利潤ヲ増シテ行クト云フコトデ、追掛ケゴツコラシテ居ルヤウナ氣持ガ

スルノデス、ソコデ何か一ツ財務當局トシテハ或ル一定ノ所デ之ヲ食止メルコトヲ考ヘナケレバナラヌデヤナイカ、サウシナケレバ何時マデ經ツテモ其ノ追掛ケゴツコハ實際ナク進ンデ行クト思フノデアリマス、殊ニ通貨ノ膨脹スル大キナ原因トシテ低物價政策ヲ維持スルト稱サレテ、一方ニ補助政策ヲオヤリニナツテ、低物價政策ヲ堅持スル爲ニ物ノ相場ヲ上ゲテハイカヌト云フガ、生産者ノ方ハ生産費ガ上ツテ來ルカラ、ソレニ對シテハ國家ガ公債ヲ發行シテ補助シテヤル、サウスルト結果ニ於テハ取上ゲル通貨ト、發行スル通貨トノ間ニハ大キナ食違ヒガ出テ來ルノデアリマスカラ、一層通貨ガ膨脹シテ來ル、隨テ物價ハ上ツテ來ル、物ノ方ハ減ツテ來ルカラ物價ハ愈々上ツテ來ル、其ノ上ニ公債ノ募集ハ、日清、日露ノ戰爭當時ニヤツタヤウニ、銀行ヤ郵便局ノ窓口カラ賣出シテ國民ノ持ツテ居ル金ヲ引上ゲテ、ソレヲ政府ノ支拂勘定ニ充テルニアラズシテ、悉ク日本銀行ニ公債ヲ交付スル交付式ニ依ツテ、日本銀行ニ紙幣ヲ發行セシメテ拂ツテ行クト云フヤウナヤリ方デアリマスカラ、此ノ點ヲ三ツ合セテ考ヘタ時ニハ、追ツカケゴツコラシテ實際ガ

ナイデヤナイカ、寧ろ補助政策ノ如キハ斯ウ云フ時ニハ打切ツテ、消費者ノ負擔ニサセテ行ツタ方ガ宜イデヤナイカ、公債ノ募集モ交付式ノミニ依ラズシテ、現金ト公債トヲ引換ヘタモノヲ以テ政府ノ支拂勘定ニ充當シテ行ク、サウシテ増稅モ或ル所デ食止メテ、物價ガ上ラナイヤウニ、隨テ國民ノ生活費ガ上ラナイヤウニ、隨テ色々ノ手當ヲ増給ヲセヌデモ濟ムヤウニ、利潤ヲ増サセヌデ濟ムヤウニ、或ル一定ノ所デ食止メテ行ク

方ガ宜イデヤナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ヲ大藏大臣カラ承リタイノデアリマス

○賀屋國務大臣 増稅ト物價其ノ他ノ循環關係ニ付キマシテハ、自由經濟時代ニ於テハ御話ノ如キ關係ガ相當顯著デアリマシタガ、只今ノ統制經濟時代ニ於テハ、是ガ完全ニ防ギ得ルトハ無論申上ゲラレマセヌガ、相當過去ノ自由經濟時代ヨリハ此ノ循環關係ガ少イト思ヒマス、現實ニ申上ゲマシテ、來年ノ歲計ガ約二百四十億圓デアリマス、是ハ事變前ニハ二十數億デアリマシタカラ十倍ニモ増シテ居リマス、是ハ其ノ數字カラ見マシテモ、所謂物價關係デ増シタニアラズシテ、仕事ガ多クナリ、戰爭ノ規模ガ大キクナツテ、横ニ伸ビタモノガ大部分ヲ占メテ居ルノデアリマス、循環關係ニ依ツテ支配サレル譯デナイ、増稅モ前ニ申上ゲタ稅額デハ六倍ニモナツテ居リマスカラ、是ハ其ノ中ニハ、結果論トシテノ物價騰貴ノ關係ハ無論其ノ一部ニアラウト思ヒマス、サウ云フヤウニ横ニ伸ビテ居リマシテ、必ズシモ循環關係ガ働イテ居ナイトハ申上ゲラレマセヌガ、ソレハ一部デアリマシテ、大部分ハ別ノ關係、横ニ經濟活動ガ大キクナツタ關係デ行ツテ居ルト思ヒマス、サウ云フ關係カラ生産力ガ増加スレバ増加スルダケ生産擴充ヲヤリ、或ハ軍需品ヲ作ルト云フノデ、歲計ハドウシテモ擴ガツテ參リマス、サウ云フヤウナ關係デ増稅モスレバ、貯蓄モシナケレバナラナイノデアリマス、尙ホ其ノ循環關係ニ付キマシテハ、通貨部面ニ於キマシテモ、例ヘバ補助金制度デアリマスガ、是モ例ヘバ鐵ナリ、石炭ノヤウナ重要品ニ付キマシテ、價格ヲ上

ゲテ參リマスレバ、其ノ面カラ言ヘバ民間ノ通貨ヲ吸收スルコトニナリマシテ宜シイヤウデアリマスガ、是ハ基礎的物資デアリマス爲ニ、一般ノ物價騰貴ヲ誘導スルコトガ比較的多イノデアリマス、ソコデサウ云フモノニ付キマシテハ、補助金ヲ交付シテ價格ノ引上ハ止メタ方ガ宜シイ、全部ノモノガサウハ參リマセヌガ、基礎的ノモノニハサウ致シタイ、動モスレバ戰時ニハ直グ物價ノ暴騰ヲ來サントスル傾向ガ非常ニ強イノデアリマスカラ、鐵、石炭ノ如キモノニハサウ云フ制度ヲ執ツテ居リマス、是ハ御話ノ如クソレダケ日本銀行券ノ増加ニナリマス、其ノ分ガ其ノ儘還ルトハ申サレマセヌガ、一般ニ稅ト貯蓄獎勵運動ニ依ツテ——一寸是モ前ニハ想像サレナイヤウナ、年ニ殆ド二百億以上ノ金ヲ吸收シテ居ルノデアリマス、又日本銀行券ノ通貨ガ増加致シマシテモ、平生ハマダ四十億デアリマス、之ニ一年ニ二百何十億ト云フ金モ吸收スルト云フヤウナ作用ヲ行ヒマシテ、其ノ弊害ハ綜合的ニハ大體防イデ居リマス、唯國債ノ募集ニ致シマシテモ、通貨ノ膨脹ヲ防グト云フ觀點カラ見マスレバ、御話ノ如ク既ニ銀行券ガ出テ居リマス、ソレニ付テ市場ニアル國民ノ懷ロノ中カラ公債ヲ募集スレバ其ノ邊ハ確カナノデアリマスガ、併シハ産業資金ニ於キマシテモ一般ノ要望ガアリマスカラ、社債ヤ其ノ他ノモノヲ常ニ「シンデケート」ガ市場ニ於テノ募集セントスルモノデアリカラ金融ガ行詰ル、何時デモ延バシノニナル、ソレデ日本銀行法ヲ改正シテ、産業金融ニ付キマシテモ、根本ニ於テ銀行券ノ増發ヲ賄フ意思デハアリマセヌガ、ドウモ國民ノ資金ノ蓄積ハ出來テ來ルガ、時間

的ニ間ニ合ハスト云フ根本的ノ現象ノ現ハ
レタ場合ニハ、先ヅ新シイ社債ヲ引受ケタ
モノヲ直グ日本銀行ヘ持ツテ行ツテ擔保ト
シテ金ガ借りラレルカラ、實際銀行ニ資金
ガ出來ナクテモ、前ニ社債ガ出來ルコトニ
今度致シマシタ、ソレデ事變以後一應ハ日
本銀行デ引受ケテ、御承知ノヤウナ巨額ノ
公債ヲ發行致シマシタガ、國民貯蓄ハ四百
何十億モ出來マシテ、通貨ノ膨脹モ事變前
ニ比ベテ三十億ト云フヤウナ程度デアリマ
シテ、大部分ハ皆吸收シテ居ルノデアリマ
ス、何トシテモ根本問題ハ、國民ガ消費生
活ニ向ケ得ル部面ヲ少クシマシテ、一方勤
勞ニ勵ミマシテ生産ヲ増強シ、自ラ生活ニ
使フモノハ少ク致シテ、其ノ差ガ物質的ニ
ハ軍需品ニナリ、生産力擴充資材ニナル、
一方カラハ收益ノ中カラ生ミ出シタモノガ
社債ニナリ、株ニナリ、銀行預金ニナリ、
公債ニナツテ行ク、此ノ循環相對ノ關係デ
參ルト云フコトガドウシテモ根本ニナリマ
ス、其根本ノ途ヲ除外致シマシテハ、戰時
ノ惡イ傾向ヲ矯メルト云フコトハ到底出來
ナイ、ソコニ大筋ヲ置イテ戰時財政ヲ運轉
シテ參リタイ、斯ウ云フ風ニ思ツテ居リマ
ス

○森田(福)委員 今ノ問題ハ私ハ大藏大臣
ノ御答辯ヲ肯定モセズ、満足モシマセヌガ、
議論ニナルカラ申上ゲマセヌ、補助政策ヲ
ヤツテ行ツテ物價ノ値上ヲ防止シテ行クト仰
シヤルガ、補助政策ヲヤツテ物價ノ値上ヲ防
止シ、市場ニ通貨ヲ投出シテ行ツテ、ソ
レヲ貯蓄ニ依ツテ吸收シテ行クト云フ、併
シナガラ消費者ガソレヲ負擔シテ居ル場合
ニハ、公債ノ發行ヲ減ズルコトニナリマス
カラ、利子ガ要ラナイ、一方ノ補助政策ヲ

ヤツテ行クノニ、稅トシテ取上ゲタ金ヲ以
テ政府ガヤツテ行クナラバ、アナタノ御説
ノ通り肯定ガ出來ルノデアリマスガ、之ヲ
悉ク公債ニ依ツテ居ル、米ノ問題デモ、石
炭ノ問題デモ——大キナ補助ハ此ノ二、三
デアリマスガ、是ハ悉ク年三分五厘ノ公債
ヲ發行シテ補助政策デヤツテ居ルノデア
ルカラ、其ノ補助金ヲ生産者ガ自ラ貯蓄ニ振
向ケタトシテモ、公債ヲ以テシタノデハ國
家ハ其ノ利子ヲ負擔シテ行カナケレバナ
ラヌ、之ヲ消費者ニ負擔サセテハドウカト
言ツテモ、是ハ第一次近衛內閣以來ノ政府ノ
面目問題デアリ、低物價政策ヲ堅持スル爲
ニヤツテ居ル財政方法デアリマシテ、第一
次近衛內閣當時ノ大藏大臣デアッタアナ
タガ又今ノ大藏大臣デアリマスカラ、改メ
レヌカモ知レナイガ、面子ニ囚ハレズニ
ウ云フ問題ハヤツテ行ツタ方ガ、國家將來
ノ爲メ、將來ノ國民ノ負擔ヲ輕クスル上カ
ラ言ツテモ宜イ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居
マス、今ノ御答ヘニ依ツテ此ノ上ソレヲ押
問答ハ致シマセヌガ、十分ニ考慮シテ貰
ツテ、追ツカケツコソスルコトダケハ止メル
ヤウナ方法ヲ執ツテ貰ヒタイト云フ希望ヲ
申上ゲテ置キマス

○森田(福)委員 今ノ問題ハ私ハ大藏大臣
ノ御答辯ヲ肯定モセズ、満足モシマセヌガ、
議論ニナルカラ申上ゲマセヌ、補助政策ヲ
ヤツテ行ツテ物價ノ値上ヲ防止シテ行クト仰
シヤルガ、補助政策ヲヤツテ物價ノ値上ヲ防
止シ、市場ニ通貨ヲ投出シテ行ツテ、ソ
レヲ貯蓄ニ依ツテ吸收シテ行クト云フ、併
シナガラ消費者ガソレヲ負擔シテ居ル場合
ニハ、公債ノ發行ヲ減ズルコトニナリマス
カラ、利子ガ要ラナイ、一方ノ補助政策ヲ

テ其ノ金額ガ少イ、其ノ大部分ノ中小商工
業者、又ハ中流ドコロノ會社デハ、生産費
ハ上ツテ行クガ賣上價格ヲ御増シナラヌ
カラ、利潤ハ決算報告ノ示ス通り相當低
下シテ參ツテ居リマス、又商人ヲ廢メテ行
ク部分ガドン／＼殖エテ行ツテ居ルト云フ
デアリマスカラ、基本ノ所得ハ減ツテ來
ルと思フ、十五年度ニ置イテ基本ノ所得ガ減
ツテ居リマスカラ、其ノ數字ヲ押ヘテ増收
ヲ見タノナラバ間違フノデナイト考ヘル
デアリマスガ、何處ヲ御押ヘニナツタノ
デアリマスガ

○賀屋國務大臣 大體ハ御話ノ如ク前ノ實
績ニ依ツテ居リマスルガ、ソレニヤハリ増
減ノ斟酌ヲ加ヘテ居リマス、尙ホ具體的ニ
必要デアリマスレバ政府委員ヨリ御答ヘ申
上ゲタイと思ヒマス

○森田(福)委員 政府委員ノ答辯ハ又ノ時
ニ伺フコトニ致シマス、大藏大臣ハ斯ウ云
フコトヲ御考ヘニナツテ居ラヌデセウカ、
我が國ノ通貨ノ信用ヲ高メテ行クト云フコ
トニ付テ何等御考ヘガナイノデアリマセウ
カ、ト云フコトヲ聽イテ見タイノハ、私ハ
此ノコトニ付テ常ニ到ル處デ意見ヲ聽イタ
リ、或ハ默ツテ世間ノ話ヲ聽イテ居ルノデ
アリマスガ、紙幣、即チ通貨ノ信用ト云フ
モノヲ世間デハ斯ウ云フ風ニ言ウテ居ル、
ドウモ金ヲ持ツテ居ツテモ切符ガナケレバ
物ガ買ヘナイ、隨テ一ツ金ノ役ニ立ツ間
ニ使ツテシマハウ、斯ウ云フ心掛ケノ惡イ
國民ノアルコトハ遺憾デアルガ、一般ニサ
ウ言ウテ居ルノデス、價值ノアル間ニ使
ツテ置ケバ宜イト云フヤウナ感ジヲ持ツ
テ居ル國民ガ一部ニアルカラ、隨デ此ノ
十二月一日頃カラ物品稅ガ上ツタ、或ハ交

○森田(福)委員 今ノ問題ハ私ハ大藏大臣
ノ御答辯ヲ肯定モセズ、満足モシマセヌガ、
議論ニナルカラ申上ゲマセヌ、補助政策ヲ
ヤツテ行ツテ物價ノ値上ヲ防止シテ行クト仰
シヤルガ、補助政策ヲヤツテ物價ノ値上ヲ防
止シ、市場ニ通貨ヲ投出シテ行ツテ、ソ
レヲ貯蓄ニ依ツテ吸收シテ行クト云フ、併
シナガラ消費者ガソレヲ負擔シテ居ル場合
ニハ、公債ノ發行ヲ減ズルコトニナリマス
カラ、利子ガ要ラナイ、一方ノ補助政策ヲ

通稅ガ上リ——寢臺券トカ汽車賃ガ上ツテ
モ御承知ノ通りニ旅客ハ減ラナイ、入場稅
ノ如キモノガ上ツテモ入場者ハ減ラナイ、
殊ニ此ノ間ノ鐵道品ノ問題デモ、何處デド
ウ漏レタカ知ラヌガ、早耳ノ人ト云フノデ
スカ、役人ト關係ノアル筋ト云フカ、其ノ
方面ノ人ハ皆買溜ヲヤツタ、役人ニ關係ノ
ナイ普通ノ家庭デハヤツテ居ラス、知ラナ
カツタ、新聞ニ突然出テ知ツタノデアリマ
ス、知ツテ居ツタノハ其ノ筋ノ人バカリデ
アル、ソコデ斯ウ云フ問題ニ關シテモ貯蓄
ノ獎勵ヲナサルニハ、此ノ觀念ヲ植付ケナ
ケレバイカヌデヤナイカ、即チ金ヲ今使ハ
ズニ貯メテ置ク、併シ一朝有事ノ際ニハ金
サヘ持ツテ行ケバ何デモ要ル物ハ買ヘルノ
ダト云フ考ヘヲ持ツコトガ出來ルヤウニナ
ルナラバ、一層貯蓄ノ向上ガ出來、サウシ
テ一層今ノ消費規正ニナツテ行クト思フノ
デアリマスガ、其ノ點ニ關シテ紙幣制度デ
行クカ、或ハ又一種違ツタ、切符ガナクテ
モ買ヘル通貨ヲ發行サレルト云フ考ヘデ行
クカ、貯蓄ヲ獎勵スル意味ニ於テ通貨ノ信
用ヲ現在以上ニ高メテ、否、事變以前ノヤ
ウニ通貨ニ對スル信用ヲ十分國民ガ持ツヤ
ウニナツテ、大事ニシテ、使ハナイヤウニ
出來ル方法ニ付テ何カ御考ヘヲ御持チニナ
ツテ居ラスデセウカ

○賀屋國務大臣 通貨ノ信用ヲナクスルト
云フノハ所謂惡性「インフレーション」デア
リマス、前ノ世界戰爭ノ末期「ドイツ」
「フランス」、ヤウナ狀況デアリマス、私モ當時
彼ノ地ニ旅行致シマシテ具サニ其ノ國人ノ
悲慘ナルコトヲ知ツテ居リマス、之ヲ防ギ
タイカラコソ、英米トノ經濟斷行ガ出來マ
セヌ間ハ、第三國ニ對スル國際收支ノ調整

爲替相場ノ維持、低物價政策ノ維持モ其處ニ根本ガアル、少々ノ無理ガアリマシテモ、此ノ手綱ヲ弛メマス、直チニアア云フコトニナルノデス、我が國ノ經濟ノ破綻ヲ防グ、其ノ方向ハ是デアル、ソレヲヤルニハ國民ニ貯蓄ヲシテ貰フヨリ外ナイ、貯蓄シナイデ置イテ、自分ダケ使ツテウマクシヨウト云フヤウナコトデハ、其ノ場ハ國民ハウマク行クカモ知レマセヌガ、明日ハ國ガ危クナルノデアリマス、サウ云フ心掛ケデヤツテ貰ツタノデハ到底イカナイノデアリマス、通貨ノ信用ハ何處ニアルカ、自分達ガ信用ヲ維持スルノデアアル、政府ニ預ケテ置イテ、役人ガ規則ヲ作ツタヤウナコトデ日本ノ國ト云フモノハ勤クモノデハアリマセヌ、併シナガラ此ノ日本ノ購買力ニ合フヤウニ節約シテ行カウ、金ヲ使フマイ、其ノ氣持デ國民ガ戦ヒ抜キマシタナラバ、忠勇ナル陸海將士ノオ蔭デ戦争ハ勝チマス、勝ツタアトデ大東亞共榮圈ノ建設ガ出來レバ、是ハ「コーヒー」デモ砂糖デモ自由自在、ソレコソ金ヲドンドン使ツテモ面白味ガアル、ソレガ何年先カ、三年先、五年先デ來スト云フコトデ辛棒出來ヌヤウナ國民デハ駄目ダト思フ、自分ノ時代ニ來ナケレバ子供ノ時代ニ參リマス、ソレヲ樂シミニウント金ヲ貯メテ置イテ貰ヒタイ、豊富ナ生活ガ先ニアリマス、是ガ大信用デアリマス

○森田(福)委員 大藏大臣ハ宜イコトヲ仰セニナル、今ノ御話ノ中ニ、國民自ラガサウ云フヤウニシテ行カナケレバ役人デハドウニモナルモノデハナイ、ソレヲ御氣付キニナツテ居ルカラ偉イト思フ(笑聲)ソレナラバ現在國民ヲ足枷手枷ト云フカ、殆ンド臺所ノ御世話マデナサツテ居ルノデアリマス

ガ、國民ヲ信賴シテ、今少シアノ點ヲユトリノアルヤウニオ任せニナルナラバ、政府ガ國民ヲ信賴スルコト一層深イト云フコトニナル、政府ノ方ガチツトモ國民ヲ信賴シテ居ラス、何カラ何マデ規則ヅクメ、足モ手モ出サレヌヤウニオヤリニナツテ居ルノガ今日ノ狀況デアル、是ガ計畫經濟デアルカ、統制經濟デアルカ知ラヌガ、兎ニ角私ハ現在ノヤウナ統制ノ仕振りヲヤツテオイデニナルト最後ハ統制倒レニナル、今大臣ガ御考ヘニナツテ居ルコトハ本當デ、アナタガ大臣トシテ、ソコニ御考ヘガアルナラバ、國民ガ長期建設ニ堪ヘヨウト云フ時ニ、其ノ國民ニ希望ヲ持タセナイヤウナコトヲヤラズニ、多少ナリトモ希望ヲ持タシタナラバ、國民ガ國家ノ政策ニ共鳴シテ一層貯蓄スルヤウニナル、アノ汽車ノ乗り方ト云ヒ、各所ノ飲食店ノ様子ト云フモノハマルデ變ツテ來マス、アレヲ食止メテ行ク必要ガアルノデアリマスガ、ソレハ通貨ニ對スル信用デアアル、政府ニ協力サスニハ、國民ヲ今少シ政府ガ信賴シテ、本當ニ舉國一致ガ出來ル、威カシデナク、心カラナル協力一致ヲナサシメルニハ、政府モ國民ヲ信用シテ行ク必要ガアル、是ハ御承知デアリマセウガ、例ヲ舉ゲテ申シマスレバ紙買ヒノ行列デアリマス、纖維類ガ切符制ニナツタカラ此ノ次ハ紙ダ、此ノ次ハ何ダト云フヤウニ、國民ガ何ガ出テ來ルカラ心配シテ居ル、本當ニヤルナラバ全部此處マデヤツテ、是レ以上ハヤラスト云フコトニナレバ買溜モ始マラス、行列モ始マラス、隨ツテ國民ニ不足モ來サナイ、即チ國民ヲ信賴シテ、國民ノ共鳴ヲ得ルト云フ考ヲ大藏大臣自ラ御持チニナツテ居ルナラバ、今後ノ

政策ニ對シテ或ル程度國民ヲ信賴シテ、モウ少シ國民ニ希望ヲ持タシテ、腹カラノ協力ニ導イテ行カレンコトヲ私ハ希望致シテ置キマス

次ノ質問ハ南方開發ニ關聯シテデアリマスガ、此ノ間豫算委員會デ企畫院總裁デアリマシタカ、現地支辨主義ニ依ツテ、所謂自給自足デ行クト云フ意味ノ御話ヲ聽イタノデアリマスガ、香港、「マニラ」ト云フヤウナ完全占領地域ニ於テドウ云ヤウニナサル積リデアアルカ、占領地ノ課税ノ問題デス、自給自足デ行クト云フニハ、占領地ニ一ツノ行政機構ヲ置イテ、ソコニ我が國ト稱、匹敵シタ各種ノ税制ヲ立テ、其取ツタ税ヲ以テ現地デ支辨シテ行クト云フ意味ニ考ヘテ宜イノデアリマセウカ、或ハ會計ノ建前上ヤハリアチラニ行ツテ居ル將兵其ノ他ノ軍ニ關係シタ經費ハ臨時軍事費ノ中カラ支辨スル、サウシテ占領地域ニ於ケル今マデ英米ニ納メテ居ツタ税ハ其ノ儘國稅トシテ取ルカ、或ハ今度新タニ出來ル行政機關ヲシテ調整セシメテ、ソレヲ我が國ノ方ヘ一應入レテ軍事費デ支辨シテ行クト云フ意味デアリマスガ、或ハ又占領地域ハ當分マダ税ハ取ラヌト云フ風ニ考ヘテ宜シイノデアリマセウカ、此ノ點ヲ詳シク承リタイト思ヒマス

○賀屋國務大臣 軍ノ現地自活ト申シマスルコトハ經濟上ノ觀點カラ申シマスルト、主トシテ糧秣其ノ他ノ物資ヲ現地物資ニ依ルト云フ方ニ重點ガアルト思ヒマス、併シナガラ御述べニナリマシタヤウナ占領地ノ住民ガ課税ヲ受ケル、負擔ヲ受ケルト云フコトモ亦見逃スベカラザル一點デアリマス、ソレニ付キマシテハ私ハ先ヅ占領地ニ於ケ

ル民政、普通ノヤハリ治安ヲ維持スル爲ニ、其處ニ行政ヲ行ハナケレバナリマセヌ、ソレニハ費用モ要ル譯デアリマス、警察官初メ官吏モ要リマセウシ、所謂行政費ガ要ルト思ヒマス、是ガ第一ニ賦課サレルモノデアラウト思ヒマス、尙ホソレ以上ニ餘力ガアリマシタナラバ、是ハ詰リ大東亞共榮圈ノ建設ノ爲ノ協同貢獻ト云フ方ニ向クト思ヒマス、ソレガ我が國ノ各種ノ大東亞建設ノ爲ニヤツテ居リマス負擔——軍事費ガ最も大キイノデアリマスガ、ソレニ貢獻スル場合モアラウト思ヒマスガ、其ノ形式ガドウナルカト云フヤウナコトハ今後ノ彼ノ地ノ實情ニ依ツテ決マルコトデアリマシテ、只今ソレニ付キマシテハ何モマダ申上ゲル段階ニ至ツテ居リマセヌ、ソレカラ税制ニ付キマシテハ實ハ私ハアチラノ税制ノコトハ能ク存ジマセヌ、當局デハ研究シテ居ルカモ知レマセヌガ、是ハ初メカラサウ多額ノモノヲ課スルコトガ出來ルカドウカ、又住民ガ戦争前ノ狀態ノ儘デ行ツテ居リマスカドウカ、是モ分リマセヌノデ只今ドノ程度ニ行クカト云フコトハマダ申上ゲルマデノ材料ハアリマセヌ

○森田(福)委員 御答ヘ御尤モデアリマスガ、假ニ香港トカ「マニラ」等ニ行ク我が國ノ法人デアツテモ、或ハ又個人デアツテモ、其ノ他在來彼ノ地ニ居ル外人デアラウト、産業ノ種類ニ依ツテハ御話ノ通り未ダ課税ヲスルノ域ニ達スルカ達セヌカ、占領後日モ尙ホ淺イコトデアリマスカラ、目算ノ立タヌコトデアラウト思ヒマスガ、併シ其ノ間ノドサクサ紛レニ可ナリ現地ヘ行キ居ツテ、免レテ居ル者モアルヤニ聞イテ居ル、サウ云フ方面ニ對シテ、此處デ内地ノ

國民ニ相當重イ課稅ヲシテ、戰費ノ負擔ヲサシテ居ル時ニ、此ノ地方ニアル者ニ目益シガ出來タリ、從來取ツテ居ツタ稅ヲ全然取ラヌヤウナコトハ宜クナイ、殊ニ我が國ハアリ餘ツテ居ル國デハナイノデアリマスカラ、此ノ點ハ至急ニ大藏大臣ハ一ツ事務當局ニ命ゼラレテ、調査セラレテ、此ノ間隙ヲ與ヘラレナイヤウニ御願ヒシタイト思ヒマス、即チ占領前ニ負擔シテ居ツタ者ガ、占領後ハ納メヌデ宜イ、前ノ所ヘ納メナイノデアアルカラ日本ヘモ納メラレヌト云フヤウナ間隙ヲ與ヘナイヤウニ、深甚ノ御考慮ト注意ヲ御願ヒシテ置キタイト思フノデアリマス

ソレカラ御伺ヒ致シマスコトハ、今度ノ増稅ニ對シテ一昨日事務當局ニ御尋ネ申上ガタ後デアリマスガ、一時所得ニ付テハ、今度ハ課稅技術上困難デアアルカラト云フコトデ、一時所得ニ對シテノ課稅ハナサツテ居ラヌノデアリマスガ、今日五十圓ノ月給取カラ分類所得稅ヲ課シテ行カウ、即チ年收六百圓アル者ニシテ扶養家族ナキ者ハ悉ク分類所得稅ヲ課セテ行カレル、所ガ御承知デアアルカナイカ知リマセヌガ、事實上營業ヲシテ居ツテ、營業ノ鑑札ヲ受ケズニ、鑛山デアアルトカ船舶デアアルトカ云フヤウナモノノ「プロローカル」的ノコトヲヤリ、土地建物ノ賣買ニ際シテ可ナリ大キナ金ヲ得テ居ル者ガ相當アル、是等ニ對シテハ今ノ稅制ノ建前デハ一時所得トシテ一向納メモセズ、申告モセズニ免カレテ居ルノデアリマスカラ、是等モ一ツ考慮ノ中ニ入レテ置イテ貰ハナイト、戰費ノ負擔ヲ國民全般ニ公平ニ負擔サスト云フ建前カラ云ツテ宜シクナイノデハナイカ、此ノ間私ガ申上ガタヤウナ

コトデモ、株式ノ清算取引ニ付テハ課稅スルガ、實物取引ニ付テハ課稅シナイ、ソレハ課稅技術上困難デアアルト言ハレル、併シ私ニ言ハセレバ必ズシモ困難デハナイ、是ハ申告ニ依ツタラ宜イ、總テ營業稅デアラウト何デアアラウト申告デヤツテ居ルノデアアルカラ、之ヲ稅務署ニ届ケテ、ソレレノ所カラ申告ニ依ツテヤルト云フコトハサウ難カシイ問題デハアリマセヌ、ソコデ小サイ者カラ取ルコトヲ忘レナイト同時ニ、大キナ所得者ヲ御見逃シニナラヌヤウ御考ヘハ願ヒタイト考ヘルガ、大藏大臣ノ御考ヘハドウデアリマセウカ

○賀屋國務大臣 御説御尤モデアリマシテ、從來鑛業權或ハ船舶ニ付キマシテ一時利得ノアリマシタ者ヲ課稅致シテ居リマシタ、ソレヲ今同擴張致シマシテ不動産ニ付テモ課稅致スヤウニナリ、稅率モ相當改正シ、引上ゲヲ致シマシタ、尙ホ株式ノ清算取引ニ付キマシテ利益ガアリマシタ者ニモ相當程度ノ課稅ヲスルコトニ致シマシタ、株式ニ付キマシテハ、清算取引ニ因ル所得ニ對シマシテハ、受渡シガ實株デアリマシテモ清算市場デ賣ルモノニハ課稅スルコトニ致シテ居リマスガ、ソレ以外ノ實株ノ件ニ付キマシテハ、實ハ相當研究モ致シマシタガ、今申上ゲマスヤウニ、森田委員ノ御話デハ技術上ノ困難モナイト云フコトデアリマスカラ、研究ノ道程ニ於テハ相當其ノ點モ問題ニナリマシテ、尙且ツ株式ノ賣買ト云フコトハ、何シロ生産擴充ヲ主眼ニ致シテ居ル際デモアリマスノデ、此ノ點ニ付キマシテハ唯抑ヘルバカリデモイカズ、負擔ノ均衡カラ言ヘバ多少ノ隙ハ出來マシテモ、先ヅ今回ノ結論トシテハ是非課稅ニ置カ

ウデヤナイイカト云フコトニ決メマシタ次第デアリマス、尙ホ是ハ今後研究シテ參リタイト思ヒマス

○森田(福)委員 其ノ點モ困難デアアルト云フコトハ此ノ間モ承ツタノデス、又今大藏大臣ノ御話モ承ツタノデスガ、困難ト云ヘバドンナ稅ヲ立案シテモ徵稅ニ樂ナモノハナイ筈デス、私ハ遊興飲食稅等ヲ料理屋ヤ飲食店ニ取立ヲ委任シテ居ルナラバ、株式ノ實物取引ヲヤル人ヲモ、之ヲ信賴シテヤツテモサウムヅカシイコトハナイ、片方ヲ信賴シテアレダケノ稅ヲ取ルナラバ、株式ノ實物ノ方デモソレヲ申告サセテ取ルコトハサウムヅカシイコトデハナイト思ヒマス、ソレカラ今ノ産業擴充問題カラ此ノ種ノ稅ハ取ラヌガ宜イト云フ御意見ナラバ個人ノ賣買モ取ラヌ方ガ宜イ、甲ノ人間ニ鑛山ヲ持タシテ置キヨリモ乙ノ人間ニ持タセタ方ガ宜イト云フナラ、乙ノ人間ニ賣ツテ十分ナ増產ヲヤラシタ方ガ宜イト云フコトニナルノデアリマス、ソレニハ一ツ、今ノ考ヘハ變ヘテ戴キマセヌト、個人デアツテ船舶鑛山ヲ賣買シタ場合ハ臨時利得稅四分ノ一ヲ取ル、株式ノ實物賣買ヲスレバ是ハ免レル、一方ハ生産擴充ニ關係ガアルト云ヒマスカレドモ、是ハ一寸理窟ガ立チ兼ねルト思フ、ソレハドトラモ同ジコトデアリマスカラ、一層ノ御考慮ヲ願ヒタイ、今日瓦斯稅ヤ廣告稅ニマデ稅源ヲ漁ツテ居ラレルナラバ、斯ウ云フ大キナ負擔ノ出來ル者、何十萬圓ノ土地建物、何十萬圓ノ船舶、鑛山ノ賣買ヲヤツタ時ニハ、五千圓、一萬圓、二萬圓ト云フ謝禮ヲ貰ツテ居ル、其ノ謝禮ハ一時所得デアアルカラト云フノデ、分類所得稅ヲ皆免レテ居ル、其ノ反面ニハ、家ヲタツタ

一軒持ツテ居ル人間デモ、分類所得稅ヲ取ラレルト云フ工合デアアルカラ、負擔ノ均衡ハヤハリ戰爭中デアツテモ圖ラナケレバナラス、戰爭中デアアルカラ大マカデアツテ宜イト云フヤウナコトデ、稅務當局ニ御任セニナラズニ、ヤハリ負擔均衡ニ付テハ相當注意ヲシテヤツテ戴キタイト思フノデアリマス

ソレカラ今度ノ法案ノ中ニ、稅務代理士ト云フモノガ出テ居ルガ、私ハ此ノ點ヲ大藏大臣ニ一ツ能ク拜承致シタイト思フ、今日、本當ニ稅務署ノ第一線ニ立ツテ働イテ居ル人ハ、私ハ屢、言フガ、マダ優遇サレテ居ラス、優遇サレテ居ラスカラ轉職シテ、良イ人ガ居ラス、良イ人ハ兎角辭メテ、居ラスヤウニナル、アレノ優遇ヲヤラナケレバナラスト思ツテ居ル時ニ、稅務代理士トカ何トカ云フヤウナモノガ出來タトナルト、此ノ方面ニ走ツテ行ク虞レガアルデハナイカ、要綱ヲ見テモ、手数料ノ決定ニ付テハ書イテアリマセヌガ、從來ハ計理士ト云フモノガ大體此ノ稅務代理士ニ似タヤウナコトヲヤツテ居ツタ、今度法律ガ出來テ、斯ウ云フモノガ出來ルト、一層辭メテ此ノ方面ニ走ツテ行ク虞レガアルト思フガ、此ノ案ニ御同意ナサル時ニハ、其ノ點ハドウ御考ヘナサツタカ、差支ヘナイ、其ノ心配ハナイト御考ヘニナツタカ、稅務署ノ第一線ニ働イテ居ル人間ガ辭メテ、其ノ方面ニ行クヤウナコトハナイト云フ確信ヲ御持チニナツテ、之ヲ御出シニナツタモノデアリマセウカ、是ハ直グニナケレバナラスモノデヤナカツタト思ヒマス

○賀屋國務大臣 稅務官吏ガ現職ヲ辭メテ參リマス場合ニハ、當分資格ヲ認メナイ積

リデアリマス

○森田(福)委員 ソレナラバ宜シイ、資格ヲ認メナイナラバ結構ダト思ヒマスガ、或ハ僅カナ期間ハ駄目デス、永久ニ御認メニナラヌヤウニ希望シテ置キマス

今度ノ綜合所得稅ナリ分類所得稅ノ増稅ニ關係シテデスガ、御承知ノ通り、從來株式ノ配當金ヲ、一割除イタアトノ九〇「パーセント」ニ一割ノ課稅ヲシテ居ル、併シナガラ綜合所得稅ヲ納メル人ニハ、其ノ引去ツタモノヲ又コレニ加ヘテ納メサセタ、今度ハソレヲ改正ニナルヤウデアリマス、一方又、ソレト同ジヤウナ意味デ、月給取其ノ他ノ分類所得稅ガ、假ニ分類所得稅ヲ千圓カラ百圓取ラレテ、九百圓ヲ收入シタ者ニ對シテ、分類所得稅ヲ取ラヌ前ノ、元ニ戻シタモノニ又課稅ヲシテ居ル、其ノ方ハ今度改正ニナラナカツタノデアリマスガ、ドウ云フモノデアリマセウ、是ハ同ジ形デ行カナケレバナラヌモノデアル、同ジ形デ行クナラバ綜合所得ノ時ニ一割引イテ、ソレヲ又元ニ戻シテ課稅シテ居ツタモノハ其ノ儘、今尙ホ殘シテ置カナケレバナラヌガ、ソレハ今度撤廢シテ取ラヌ、ソコデ綜合所得シタ者ト雖モ十分ノ一ニ對スル一割ハ取ラヌコトニセラレタナラバ、一方ノ分類所得稅モ引イテ、其ノ殘リノ正味ノ、國民ノ手ニ本當ニ入ツタモノニ對シテノミ納メサセルコトニセヌト跋ツコニナル、ソレハドウ御考ヘデス、尤モ大藏大臣ハソコマデ御聽キニナツテ居ラヌカモ知レナイト思ヒマスガ、併シ是ハ大キナ問題ダカラ御尋ネシマス

○賀屋國務大臣 ソレハ從來跋ツコデアツタノヲ直シト言ヘルカトモ考ヘラレルノ

デアリマス、株ノ方ハ從來加算サレテ居リマシテ、少シ何デアツタカラソレヲ省イタ、ドチラモ綜合所得稅ヲ取リマス時ニハ、總所得ニ課ケルノデ、今度デ足ガ揃ツタヤウニ私ハ思ツテ居リマス

○森田(福)委員 足ガ揃ハヌノデス、具體的ニ申上ゲレバ、今マデハ百圓ノ配當ヲ貰ツテ居ル人ニ對シテ、十圓ヲ引イタ九十圓ノ一割ナラ一割ヲ取ル、併シナガラ綜合所得稅ヲ納メル時ニハ其ノ引イテヤツタモノハ元ニ戻ス、還元スル、サウシテ一方他ノ方面ノ者ハ、今マデ千圓ノ收入ガアツテ、分類所得稅ヲ假ニ百圓取ラレ、アトノ九百圓ハ皆貰ツテ歸ツテ居ル、源泉課稅デ百圓引イテ、アトノ九百圓ヲ貰ツテ居ルニ拘ラズ、ソレヲ又元ニ還元シテ、貰ハナイ金ヲ加ヘテ、千圓トシテ綜合所得稅ヲ課ケテ行ツテ居ル、是ハ誰ガ考ヘテモ、稅引ノアトノ金ニ又稅ヲ課ケテ居ル、若シソレヲヤルナラバ、銀行所得デモヤハリソレヲヤラナケレバイケナイコトニナル、私ハ其ノ點ハヤハリ今度正サレモノト信ジテ居ツタガ、是正サレテ居ラヌノデス、大臣ハ跋ツコニナラヌト言ハレルガ、ソレハ御聽キニナツテ居ラヌナラ已ムヲ得ナイト思ヒマスガ、私ハ其ノ點ハ何トカ御考慮願ヒタイト思ヒマス

最後ニ一點聽イテ置キタイ、今後臨時軍事實費ハ追加ガ續々ニカラ出テ參ルト思フノデス、其ノ點ヲ此ノ間カラ他ノ委員諸君カラ屢々質問シテ居ルケレドモ、大藏當局ノ明快ナ答辯ガナイノデス、是ハ今後臨時軍事實費ノ追加豫算ガ出ル都度、稅引イデクツテ新稅ヲ設ケルトカ、或ハ稅率ヲ上ゲテ行クト云フヤウニシテ、今マデノヤウニ公債ト二本建デ稅ニ手ヲ付ケラレルノデアルカ、サウデナクシテ、今後ハ公債一本デ行クノデアルカ、斯ウ云フコトニ付テ方針ガアルナラバ明瞭ニ承ツテ置キタイ

○賀屋國務大臣 御答ヘ申上ゲマス、先程ノ税金ニ付キマシテハ、綜合所得稅ノ場合ノ加算ハ省イタガ、分類ノ方ハ一割控除ガ株ノ方ハ殘ル、ソレハ詰リ、配當利子ノ分類所得稅ト云フモノニ付キマシテ、株ニ付テ特ニ優遇シタノガ殘ツテ居ルノデアリマシテ、分類所得ノ方ノ御話ハ、ソレハ株ノ優遇ガ殘ツテ居ル、ソレヲ前ニハ、綜合ノ時ニ又課ケタモノデスカラ、ソレデハ優遇ノ趣旨ヲ達シナイノデ、綜合ノ際ニハソレヲ省イタノデアリマス、尙ホ疑問ガアリマシレバ、出來ルダケ政府委員カラ御答ヘ申上ゲマス

ソレカラ後ノ問題デアリマスガ、是ハ公債一本デ行クト云フ方針デアリマセウ、今後實情ニ應ジテ増稅ハ致シテ行ク積リデアリマス、併シ之ヲ何時致シマスカ、ドウスルカト云フコトハ、其ノ時ノ情勢ニ依リマスカラ、臨時軍事實費ガ出ル都度増稅スルカト云フ御話ニナリマスレバ、サウデモナイト思ヒマス、併シ増稅ト云フモノハ一切ヤラヌ、斯ウ云フコトデアリマセウ

○森田(福)委員 私人質問ハ大體是デ終リマシタガ、大藏大臣ニ對スル今ノ問題ハ、又事務當局ニ伺ツテモ宜シイノデス、跋ツコニナツテ居ルノデス、片一方又跋ツコニナツテ居ラヌカラ直ツタト言ハレルノダラウト思フ、今マデ引イテ、綜合所得者ニハ又ソレヲ元ニ戻シテ課ケテ居ツタガ、今度ハソレヲ課ケナイ、ダカラ片一方モ、稅引

シタアトニノミ課ケルベキモノデアル、斯ウ言フノデアリマスガ、ソレハ又事務當局トヤリマス

今一點、臨時措置法ニ依ツテ營業稅ナドノ減免ガ澤山出來ルヤウニナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ結果地方團體ノ減收ニ對シテハドウ云フ風ナ御考ヘヲ以テオヤリニナツタノデアリマセウカ、地方團體ハ御承知ノ通り、營業稅ノミニ附加稅ヲ許サレテ、他ノ臨時利得稅、所得稅ニハ從來附加稅ハ許サレテ居ラヌ、今度營業稅ニ澤山減免ガ出來ルコトニナルト、地方團體ノ豫算ノ執行ニモ忽チ困ツテ來ルト思フノデアリマスガ、是等ニ對シテハドウ云フ御考ヘヲ持ツテ居ラレマスカ

○松隈政府委員 今回ノ稅制改正ノ結果、臨時利得稅ヲ増徴致シマシタ、臨時利得稅ヲ増徴致シマス、利得稅額ガ營業稅ノ計算ニ當リマシテ控除サレマスノデ、隨テ營業稅ノ課カル基本ガ減ツテ參リマス、其ノ方面カラ來マス營業稅ノ減ニ對シマスルモノニ付キマシテハ、分與稅ヲ計算致シマス際ニ考慮ニ入レマシテ、財源ノ補填ヲ致スヤウニ交付率ヲ按配シテゴザイマスガ、一般ノ場合ニ於キマスル措置法ノ減ト云フヤウナコトハ、營業ノ一般ノ成績トモ睨合ツテノ問題デアリマスノデ、措置法ノ方ノ減ニ付テハ、特ニソレガ爲ノ財源ヲ考慮スル意味デ交付金ヲ増スト云フヤナコトハ致シマセヌ

○勝委員長 生田君

○生田委員 此ノ參考書ヲ見マスト國民貯蓄ハ十六年度五百十五億ニナツテ居リマスガ、是ハ六月末デスカ、本年末ニナレバ、凡ソドノ位ニナリマスカ

○松隈政府委員 只今ノ御尋ネハ川崎委員要求ノ第五號資料デアリマシテ、最近五箇年間ノ預金貯金額調べニ付テノ御尋ネト解スルノデアリマス、其ノ中銀行預金郵便貯金ニ付キマシテハ十六年末マデ分ツテ居リマスガ、産業組合貯金ガ六月末ノ數字シカ出シテ居ラスカラ、若シ之ヲ六月末デナク十二月末ニシタナラバ、ドノ位ニナルカト云フ御尋ネト解スルノデアリマスガ、御承知ノ通り産業組合ハ、其ノ數ガ非常ニ澤山アリマシテ、此ノ統計ト云フモノガ資料ノ蒐集ニ手間取リマス關係上、何時モ遅レ勝ナノデアリマス、是ハ産業組合關係ノ官廳ニモ照會致シマシテ、最モ最近ノ資料トシテ貰ヒマシタノガ六月末程度ト云フヤウナ譯デアリマスノデ、十二月末ノ推定ハ只今ノ所一寸の確ニ申上ガ兼ネルヤウナ次第デアリマス

○生田委員 ソレデハ大藏大臣ニ御尋ネシマスガ、十七年度ノ公債募集額總額ハ凡ソドノ位デアリマスカ

○賀屋國務大臣 只今ノ所デ百六、七十億ニ相成ラウト思ヒマス

○生田委員 ソコデ御尋ネシタイノハ此ノ貯金總額ヲ見ルト一番銀行ガ大キイ、十七年度ハ二百十何億デアリマス、十六年度ハ五百十何億ノ上更ニ産業組合ノモノガ増シテ居ル、大體十四年度ハ九十億圓程増シテ居ル、十五年度モ同ジク九十億圓程増シテ居ル、十六年度ハ未定デアリマスケレドモ、此ノ表デハ又九十億圓位増シテ居リマス、大體百億圓見當國民貯蓄ガ増加シテ居リマス、ソコデ事變以來ノ公債發行額ハ慥カ百億ドラウト思ヒマスガ、如何デセウカ

○賀屋國務大臣 一寸不調法デアリマシテ

ハツキリ申上ダラレマセヌガ、モウ二百何十億カ、モツト行ツテ居ルト思ヒマス、是ハ後ニ又正確ニ申上ダマス、非常ニ大キイ數ニナツテ居リマス

○生田委員 ソコデ昨年度デハ年々大體八十億、九十億、百億程度増シテ居リマス、十七年度ハ百七十億、公債發行ニナリマスト、急ニ七、八十億ハ國民貯蓄ガ殖エナケレバナラスガ、十分ニ其ノ御見込ハアルノデアリマスカ

○賀屋國務大臣 其ノ點ガ最モ重大ナル點デアリマシテ、昭和十六年度ハ百三十五億、昭和十五年ハ慥カ百二十億ニナツテ居ルト思ヒマス、ソレヲ大東亞戰爭ノ始マリマス前ノ狀況カラ上ダナケレバナラスノデ、百七十億ニ増加致シマシタ、而モ此ノ増加ガ年度ノ半バ以上過ギテカラノ増加デアリマシテ、三十五億ノ増加デアツテ、僅カ二、三割ノ増加ト思ヒマスガ、實ハ二倍ニ近イ所マデ行カナケレバナラス、斯ウ云フ關係ニアルノデアリマス、來年ハ只今ノ所デハ、ドウシテモ二百二十億以上ニナルト思ヒマス、公債ノ増加ノ外ニ生産擴充資金ガアリマス、非常ナ大飛躍デアリマシテ昭和十五年ニ較ベテ昭和十七年ハ二倍ニ近クナルノデハナイカト思ヒマス、是ハ産業擴充資金等ヲ一方ニ確定致シマス、細カク申シマスト、公債デ出シマシタ資金ノ中ニモ、外地ニ出ルモノモアリマス、引クモノモ加ヘルモノモアリマスカラ、何レニ致シマシテモ非常ナ飛躍デアリマシテ、是ガ出來ルカ出來スカガ戰時經濟ガ維持出來ルカ出來スカノ岐レ目デアリマス、是ガ維持出來テコソ大ナル發展ガアルノデアリマスカラ、極力此ノ爲ニ國民諸君ニ御協力ヲ願ヒ、又政府

モ出來ルダケ努メタイト思ヒマス、併シ出來ル可能性ハアリマス、是ハソレダケ政府資金ノ撒布ガ増シマスカラ、國民ノ所得ガ増シマスノデ、確カニ出來マス、出來ル種ガナイノニナルノデアリマセヌ、必ズ出來マス、是ハ十三年ノ當時私ガ始メマシテ、國民貯蓄八十億ト云フ目標ヲ立テマシタ、此ノ當時モ其ノ前一年ノ十二月マデハ二十七、八億デアリマシテ、ソレヲ一舉ニ三倍ト云フ目標ヲ立テマシタガ、ソレハ公債ノ募集ニ依ツテ戰費ノ撒布ガアリマスカラ、國民所得ガ増ス、斯ウ云フ考ヘデヤリマシタ、其ノ後大體歷代政府ノ同ジ考ヘデ或ハ百億、或ハ百二十億ト云フ目標ヲ立テラレテ、既ニ大體其ノ目的ハ達シテ居リマス、國民ガ大イニ時局ヲ認識セラレ、殊ニ國家興亡ノ際デアリマスカラ、努力シテ下サレバ出來ルコトナルノデアリマス、ソレデ國民所得モ四百億以上ニ出ルドラウト申シタノハ一面所得ノ殖ヘル元ガアルカラデアリマス

○生田委員 モウ一點御伺ヒ致シマス、從來ノ政府ノ物價政策ハ先刻大藏大臣カラ御述ベニナツタヤウニ、大體此ノ見當デ安定サス、斯ウ言ハレルノデアリマスガ、一面ニ於テ實ハ從來政府ハ物價ノ騰貴ヲ非常ニ抑制サレテ居ル、ソコデ産業上ノ利益ガ一般的ニ少クナツテ居ルノデハナイカ、是ハ軍需産業ニ關係シテ居ル人、或ハ閣取引ヲスル人ハ儲ケテ居リマスガ、實際ニハ眞面目ニヤツテ居ル者ハ利益ガ低下スル、利益ガ低下スルカラ實ハ貯蓄ガ燃エナカツタノデス、此ノ生産擴充計畫トカ色々ナ爲ニ或ハ國家經濟ノ發展トカ膨脹トカ云フ爲ニ此ノ國民ノ貯蓄心ガ燃エテ居ルノデアリマスカ、政府ノ政策カラ云ヘバ、實ハ貯蓄ヲ減

ラサナケレバナラス、所ガ日本ノ國民ノ貯蓄心ハ幸ヒニ燃エマスガ、國民ノ貯蓄心ガ燃エルカ燃エヌカハ一ニ政府ノ財政經濟政策ニアル、國民ガ政府ニ協力スルコトハ勿論デアリマス、確カニ協力シテ居リマス、併シ其ノ財政經濟政策ノ御方針ヲ一度誤リマス、國民ノ貯蓄心ガ出ナクナル、出ナクナツタ時ニハ此ノ公債政策ガ行詰ル、斯ウ云フ憂ヒヲ實ハ私平素カラ致シテ居リマスガ、此ノ表ヲ見テ多少サウ云フ憂ヒヲ深クスルノデアリマスカラ一應御尋ネ致シタ次第デアリマス、其ノ點ヲモウ少シ明カニ出來マスレバ幸ヒダト思ヒマス

○賀屋國務大臣 國民各層ノ中ニ所得ノ減ツタモノモアリマスガ、全體ノハ殖エテ居リマス、全體ノト申上ダタノハ、減ツタ人モアリマセウガ、殖エタ人ガ又隨分アルノデアリマシテ、十七年度ハ全體トシテ國民所得ハ十六年度ヨリ大イニ殖エルト思ツテ居リマス、隨テ國民ニ貯蓄理念ガアレバ必ズ出來ルト思ヒマス、サウシテ又貯蓄ヲシナケレバ、眞ニ國家經濟ノ破綻ニナルト云フ自覺ガアリマシテ、若シ破綻ヲスレバ何トモ軍事行動ノ背後ノ力モナクナルカラ、寧ロ之ヲ興隆セシムル爲ニ、戰費デアル公債ノ資源、生産擴充資金デアル國民貯蓄ノ増強ヲスル、是ハ國民ガ國家興隆ノ爲ニ必ズ實現サレルト私ハ思ツテ居ルノデアリマス、之ヲ強制的ニナド私ハヤリタクナイノデアリマス、又強制的ニヤルノハ其ノ目的ヲ達スル所以デアリマセヌ、強制的ニ何百億ノ貯蓄ヲヤルト言ヘバ、一應安心ハ付キマセウガ、サウ云フコトデハ安心ナラスト思フ、結局稅デ取ルヤウナ少イ金シカ取レナイコトニナリマス、國民ガソレニ依ツテ

安心ヲサレタラ、却テイケナイコトニナリマス、何トシテモ國民ノ總力ヲ擧ゲテ之ニ向ケテ戴ク外ハナイ、斯様ニ存ジテ居ルノデアリマス

○岡本委員 私ノ要求シマシタ表ノ第一號ニ付テ、租稅收入ノ内譯、豫算ト決算ヲ對照シテ見マス、昭和十一年以來十五年マデ年々決算ノ方ガ増加ニナツテ居リマス、十六年ハマダ決算ガ分リマセヌガ、御覽ノ通り十一年ハ十二億七千万圓ガ十三億八千万圓、十二年ハ十七億二千万圓ガ十八億、十三年ハ二十二億九千万圓ガ二十四億七千万圓、十四年ハ二十七億五千万圓ガ三十一億、十五年ハ三十八億ガ四十三億六千万圓、年々大分殖エテ居リマス、一年トテ決算ガ減ツタ年ハナイ、隨テ十六年ノ四十七億ト云フモノモ五十億或ハ五十一、二億ニナルノデハナイカ、又十七年ノ七十億ト云フ豫算モ七十四、五億ニナルノデハナイカ、斯ウ云フ推論モ出來マス、過去數年ノ經過ヲ見ルト、是ハ詰リ豫算ノ方ガ見積リガ少イノデハナイカ、若シ豫算ガ少クナイト云フナラバ、無理ニ所謂誅求シタ結果デハナイカ、斯ウ云フコトモ言ヒ得ルノデアリマス、或ハ自然増收ト云フヤウナモノガアルノデセウガ、併シ年々斯ウ云フ風ニ相當ツツ殖エテ居ルト云フノハ、自然増收モ相當見積ツテ居ラレナケレバナラヌモノダト思ヒマスガ、何カ之ニハ譯ガアリマスカ、承リタイ

○賀屋國務大臣 是ハ私ハ斯ウ云フ譯ダラウト思ヒマス、豫算ノ見積リハ、大體過去ノ實績ヲ本ト致シマシテ、ソレニ増進率ヲ見テ參リマス、ソレデ自然増收モ或ル程度見込ンデ參ツテ居リマス、併シソレガ尙ホ

殖エルト云フノハ、從來大藏省ノ方ハ非常ニ堅實ナ數字ノ捉ヘ方ヲ致シテ居リマスノデ、ソレモアリマスガ、一番大キイノハ、要スルニ戰費ノ増加ニ依ル撤布資金ガ増加シテ、國民所得ガ増加スルト云フ點デアルト私ハ思ツテ居リマス、豫算ヲ立テマス時ニハ軍事費ハ何時デモ出來ナイ時デアリマシテ、軍事費ガ幾ラ増スカラ、國民所得ガ幾ラ増スガラウト云フ風ナ計算方式ガ從來マダ出來テ居リマセヌ爲ニ、大體從來ト同ジヤウヲ實績ヲ本ニシテ、ソレニ増進率ヲ見テ參ル、ソレガ實收ト違ヒマスノハ、年々格段ニ軍事費ガ増加致シマシテ、ソレガ大體國民ノ所得ニナリマス、ソコデ課稅物件ガ増加スル、自然増收ガ出來ルト云フコトデアリマス、十七年モ實收ハヤハリ多イト思フ、年々ノ決算ノ多イ所以ハソコニアルト考ヘテ居リマス

○勝委員長 ソレデハ本日ハ是ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス
午後三時三十六分散會

昭和十七年一月三十日印刷

昭和十七年一月三十一日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局